

福岡県改修工事特記仕様書

I 工事概要

1. 工事名称
長峽中学校校舎管理棟外壁改修工事

2. 工事場所
行橋市大字延永6番地

3. 工事概要は別紙（仕上表）による。

4. 別途工事
・
・

5. その他

II 建築工事仕様

1. 標準仕様
図面及び特記仕様書に記載されていない事項はすべて国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年版）」及び「建築改修工事監理指針（平成28年版）」による。
ただし、改修仕様に記載されていない事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（平成28年度版）」及び「建築工事監理指針（平成28年版）」による。

2. 特記仕様

1）項目は番号に○印のついたものを適用する。

2）特記事項は ○印のついたものを適用する。
○印のつかない場合は、※印のついたものを適用する。
○印と ※印のついた場合は、共に適用する。

3）特記事項に記載の（ ）内表示番号は、公共建築改修工事標準仕様書の当該項目、当該図、または当該表を示す。

4）特記事項に記載の「 」内表示番号は、公共建築工事標準仕様書の当該項目、当該図、または当該表を示す。

5）形状寸法の単位は特記なき限り、ミリメートルとする。

章項目特記事項

①適用基準等

図面もしくは特記仕様書に記載なき場合は、以下の仕様書による。
（1）「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修（以下「標準仕様書」という。）による。
（2）「公共建築改修工事標準仕様書（建築工事編）平成31年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（3）「公共木造建築工事標準仕様書 平成31年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（4）「建築物解体工事共通仕様書 平成31年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（12）「官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説（平成8年版）」建設大臣官庁営繕部監修
（13）「建築工事標準仕様書 同解説」日本建築学会
（14）「建築工事の手引き」福岡県建築都市部編集
（15）「解体工事の手引き」福岡県建築都市部編集
（16）「補修工事の手引き」福岡県建築都市部編集
（17）「黒板、畳、複工事の手引き」福岡県建築都市部編集

②補足基準等

1.適用仕様等、図面、特記仕様書に記載なきものについては、以下の基準、指針、要領、標準図等による。
（1）「建築構造設計基準 平成30年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
（2）「建築工事標準詳細図 平成28年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部監修
（3）「鉄筋コンクリート構造配筋要領 平成11年版」建設大臣官庁営繕部監修
（4）「補装設計標準図 平成12年版」建設省大臣官房官庁営繕部監修
（5）「建築改修工事監理指針 平成28年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
（6）「建築改修工事監理指針 平成28年版」国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
（7）「建築改修工事監理指針 同解説」国土交通省大臣官房官庁営繕部整備課監修
（8）「解体工事安全施工指針」建設業労働災害防止協会
（9）「建設廃棄物処理指針」厚生労働省生活衛生局
（10）「建築物解体等に係るアスベスト飛散防止対策マニュアル」環境省大気保全局（環境庁アスベスト飛散防止対策研究会）
（11）「建築物等の解体等工事における石綿粉じんへのばく露防止マニュアル（新版）」建設業労働災害防止協会
（12）「官庁施設の総合耐震診断・改修基準及び同解説（平成8年版）」建設大臣官庁営繕部監修
（13）「建築工事標準仕様書 同解説」日本建築学会
（14）「建築工事の手引き」福岡県建築都市部編集
（15）「解体工事の手引き」福岡県建築都市部編集
（16）「補修工事の手引き」福岡県建築都市部編集
（17）「黒板、畳、複工事の手引き」福岡県建築都市部編集

③適用範囲等

すべての設計図書は相互に補完するものとする。ただし設計図書に相違がある場合、設計図書の優先順位は、次の（1）～（4）の順番とする。
（1）質問回答書（2）から（5）に対するもの
（2）現場説明書
（3）特記仕様書
（4）図面

④現場に常備する図面等

上記の「1.適用仕様書」及び「2.補足基準」のうち、当該工事に係る図書等については現場事務所に常備し監督職員の確認を得ること。

5.工事実績等の登録

請負者は、工事請負額が500万円以上の工事について、受注時は契約後10日以内に、登録内容の変更時は変更があった日から10日以内に、完成時は契約後10日以内に、工事実績情報サービス（CORINS）に基づき、「建設情報実績」を作成し、建築都市総務課契約室の確認を受けた後に、（-財）日本建設情報総合センターに提出しなければならぬ。また、（-財）日本建設情報総合センター発行の「登録内容確認書」の写しを建築都市総務課契約室に提出しなければならない。
問い合わせ先 〒812-0016 福岡市博多区博多駅3-11-28博多サンシティビルⅡ6F（-財）日本建設情報総合センター九州地方センター TEL 092-411-3664 FAX 092-411-3486（1.1.4）

⑥施工体制台帳

※現場説明書による。請負者は下請け契約を行う全ての工事で施工体制台帳を作成し、工事現場に設置置くとともに、その写しを監督員に提出すること。

7.文化財その他埋蔵物

工事の施工に当たり、文化財その他の埋蔵物を発見した場合は、直ちにその状況を監督員に報告する。その後の措置については、監督員の指示に従う。（1.1.12）

⑨実施工程表

概成工期（平成 年 月 日）（1.2.1）

⑩工事の記録

工事日報は、工事記録を兼ねることができる。（1.2.4）
下記要領により撮影し、写真帳に説明を記入のうえ提出する。（原稿は撮影業者が保管する。）
区分分類規格部数原稿の大きさ備考
※着工前※カラー※サービス版※1部※24×36以上又はデジタル画像監督員の承諾する撮影者（原稿提出不要）
※施工中※カラー※サービス版※1部※24×36以上又はデジタル画像監督員の承諾する撮影者（原稿提出不要）
※完成時※カラー※サービス版※2部※100×125以上※24×36以上監督員の承諾する専門業者
注記撮影業者は建築完成写真の撮影実績がある者で、監督員が承諾する撮影者（着工前、施工中）、監督員の承諾する専門業者（完成）とする。
電子データはRGB（フルカラー）、JPEG形式最高画素としCD-Rで提出する。
デジタル撮影時200万画素以上300dpi以上
各工程ごとに作業時の状況がわかるように黒板（工事名、撮影箇所、年月日等記入）、スケール等をあて撮影する。建設大臣官房官庁営繕部監修「工事写真の撮り方」改訂第2版による。
※適用する（工事用電力設備の保安責任者が兼ねる。）・適用しない（1.3.3）

⑫施工条件

（1.3.5）

⑬施工中の安全確保

建築基準法、労働安全衛生法、その他関係法令等に定めるところによるほか、（1.3.7）
建設工事公衆災害防止対策要綱に従うとともに、建築工事安全施工技術指針を参考に、常に工事の安全に留意して現場管理を行い、施工に伴う災害及び事故の防止に努める。

⑭建設リサイクル法

「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」（建設リサイクル法）の対象となる工事に該当（※現場説明書による。・する ○しない）

⑮工事に伴う建設副産物の処理について

建設副産物の処理について
資源の有効利用、環境負荷の低減等を図り、「資源循環型社会」を構築するため、建設副産物の発生抑制、再利用、適正処理を推進する。
現場内で発生する建設副産物の処理については、現場内において発生する品目ごとに分別し指定された場所へ集積すること。
また、施工区分表に積み込み・運搬・処分までの指示がある工事については、現場内に分別保管場所を設置するとともに、再生資源の利用の促進に関する法律、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、建設廃棄物処理指針その他関係諸法令等によるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、指定された方法により適正に処理を行うこと。
「建設工事に係る資材の再資源化に関する法律（平成12年6月31日法律第104号）」規定されている事項について、建築工事における対応については、「建築工事における建設副産物管理マニュアル（平成16年6月12日付国営環第7号）」による。
工事に際しては、工事着手時に建設副産物処理計画書、再生資源利用計画書等を、工事竣工時に建設副産物の処理結果報告書、再生資源利用実施報告書等を提出すること。
指定副産物（原則として再資源化施設へ持込むもの）
・がれき類（コンクリート塊）（アスファルト塊）
・建設発生土
・汚泥
指定副産物の工事現場からの搬出、再生資材等の利用等については、「リサイクル原則化ルール（平成18年6月12日策定）」により実施する。
建設汚泥については、「建設汚泥の再生利用に関するガイドライン（平成18年6月12日事務次官通知）」に従い、建設汚泥の再生利用を推進する。
その他の副産物
○廃プラスチック・ガラス、陶磁器くず・廃石こうボード・金属くず・繊維くず
特別管理産業廃棄物
○廃石綿等
「建築物の解体等に係る石綿飛散防止対策マニュアル（環境庁大気保全局）」及び「石綿障害予防規則（平成17年7月1日施行）」に従い、収集、運搬、処分を行う。
・廃PCB等
「電気事業法：電気関係報告規則」及び「ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法」に従い、報告書の作成・届出を行うとともに、適正に保管できるようにして施設管理者に引き渡すこと。
※参考受入場所は現場説明書による（1.3.12）

⑯施工中の環境保全等

建築基準法、建設リサイクル法、環境基本法、騒音規制法、振動規制法、大気汚染防止法、水質汚濁防止法、廃棄物処理法、土壌汚染対策法、資源有効利用促進法、その他関係法令等に定めるところによるほか、建設副産物適正処理推進要綱に従い、工事の施工の各段階において、騒音、振動、粉塵、臭気、大気汚染、水質汚濁等の影響が生じないように、周辺環境の保全に努める。（1.3.11）

⑰再資源利用（促進）

※提出する（CD-R等にて）・提出しない

⑱建築材料等

本工事に使用する建築材料等は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。ただし、同等のものとする場合は、監督員の承諾を得る。
なお、「評価名簿による」と特記されたものについては、国土交通省大臣官庁営繕部監修「建築材料・設備機器等性能評価事業建築材料等評価名簿（最新版）」による。
福岡県認定リサイクル製品の使用製品名及び使用部位については、現場説明書によること。
標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督員の承諾を受け、当該製品の指定工法によることができる。（1.4.1）

⑲施工数量調査

調査項目調査範囲調査方法報告書・数量書
外壁装化調査外壁全体目視及び打診※2部○1部
※2部
※2部
※2部
※既存部分の破壊を行った場合の補修方法は図面図示による。（1.5.2）（1.5.3）

⑳技能士

適用工事技能検定職種備考
・鉄筋工事鉄筋施工
・コンクリート工事型枠施工
・木工事建築大工
○左官工事左官
○塗装工事塗装
・屋根及び屋根工事建築板金
・内装工事内装仕上げ施工
・内装工事表装
・金庫工事内装仕上げ施工（鋼製下地）
・植栽工事造園
請負額 300万以上

21. 施工の検査等

見本施工の実施箇所（）工種（）（1.5.5）

22. ホルムアルデヒド及び揮発性有機化合物の測定

室内空気中化学物質の濃度測定・行う・行わない
ホルムアルデヒド測定の検体数・4力所
VOC測定の検体数
測定対象室
※現場説明書による・図示
測定位置、方法については、測定前に監督職員に確認する。
測定方法等は「揮発性有機化合物の室内測定容量」参照
※学校施設については、文部科学省「学校環境衛生基準」（平成21年4月1日告示第60号）に基づきVOC等の測定を行う。（1.5.9）

⑲完成図等

種類及び提出形式は下記による（1.7.2）
種類提出形式部数
完成図※設計図一式※二つ折り青焼き又は白焼き製本（A1）※CADデータ（JWW又はDXF又はFSC）※T1Fデータ（竣工図電子データ作成要領による）※1部・（）部
総合図※一式※二つ折り青焼き又は白焼き（適宜：A1又はA3）※1部・（）部
施工図※建屋全体※平面図※建築基礎及び基礎※二つ折り青焼き又は白焼き（適宜：A1又はA3）※1部・（）部
作図図※家具図※二つ折り青焼き又は白焼き（適宜：A1又はA3）※1部・（）部
（注）データの提出はCD-R、DVD-R又はUSBフラッシュメモリーに保存して提出すること。
「標仕」1.7.3(a)の他、下記について必要事項を記入のうえ監督員に提出する。
国土交通省HP「施設保全マニュアル作成要領」
建設大臣官庁営繕部監修の「管理者のための建築物保全の手引き」（（財）建築保全センター発行）（1.7.3）
提出部数※2部・（）部
保全に関する説明書：※建物概要及び内部仕上げ表※施工者一覧表※取り扱い説明書、メンテナンスについての注意事項

24. 保全に関する資料

※図示による・現状地盤の平均高さとし、監督員の指示による
ダンプトラック等による工事用資機材等の過積載を行わないこと。さし枠の装置又は物品積載装置の不正改造をしたダンプトラックは工事現場内に入出りさせないこと。

25. 設計GL

⑲過積載の防止

※図示による・現状地盤の平均高さとし、監督員の指示による
ダンプトラック等による工事用資機材等の過積載を行わないこと。さし枠の装置又は物品積載装置の不正改造をしたダンプトラックは工事現場内に入出りさせないこと。

27. 解体等工事の範囲

解体等工事にかかる範囲は以下のとおり。
・建築物・地上部・地下部・杭・（倉庫）
・付属構造物・浄化槽・貯油槽・杭・（キュービクル基礎）
・電気設備・建物内配管配線・電気設備機器・（）
・給排水設備・建物への引込線・敷地への引込線（廃止）
・建物内配管配線・衛生設備機器・（）
・建物への引込管・敷地への引込管（玉下ろし）
・建物内配管・空調設備機器・（）
・建物内風道
・ガス設備・建物内配管・ガス設備機器・（）
・建物への引込管・敷地への引込管（廃止）
・門、門扉・塀、フェンス・舗装（）
・植栽（）
・有害廃棄物の処理・廃PCB・特定フロンガス・廃石綿等・（）
・什器、備品類等の撤去
※解体等工事の撤去は下表による。 ※を標準とする。
区分建物管理者工事担当者
アスベスト含有建材※
オイルタンク内のオイル※
ビッド（浄化槽、便槽）汚泥※
使用されていた酸、アルカリ、薬品等※
畜産系特別管理産業廃棄物、放射性廃棄物※
フロン、ハロン使用機器※
PCB使用機器※

28. 敷地に関する調査

・敷地内障害物の調査・敷地内配管、配線の調査・地下水位の調査

⑲原形復旧

工事中、取合部その他本工事範囲外の部分に汚損が生じた場合は原形に復する。

30. 設備工事との取合い

※施工区分表による
・施工範囲は下記による
・図示した鉄筋コンクリート部の貫通孔、開口部の型枠及びそれらの補強
※図示した壁、天井の仕上り材、下地材の切込み及び下地材の補強
※駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ
※自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強
・（）

31. 風速及び地表面粗度区分

風速（・34m/秒・）（各章共通）
地表面粗度区分（ⅠⅡⅢⅣ）

32. 接着剤

ホルムアルデヒド放散等級（※F☆☆☆☆・F☆☆☆・F☆☆）（各章共通）

⑲総合図での調整

各工事の着工に先立ち、各施工図の基準となる総合図を作成し、監督員の承諾を受ける。
総合図は施工図作成に先立ち、建築・設備・その他別途発注工事業者の情報などをすべて盛り込んだ図面とし、それらの接点の細部調整を行う。
総合図の調整は、建築工事の請負者が行い、設備工事・その他の請負者がそれに協力する。
参考図の製品の使用にあたっては、参考図以外の形状等に多少相違がある製品等でも同等品以上であれば使用できる。
竣工後（※2○1）年以内に当該工事範囲に関する経年変化の状況を調査し、報告すること。

34. 参考図

（メーカー仕様の図面）の取り扱い

⑲竣工後の調査

①足場その他

手すり先行足場について
足場を設ける場合は、「手すり先行工法等に関するガイドライン（厚生労働省 基発第0424001号平成21年4月24日）」の「手すり先行工法等に関するガイドライン」によるものとし、足場組立て、解体、変更の作業時及び使用時には、常時、手すり、中枝及び両面欄木の機能を有するものを設置しなければならない。
なお、設置においては、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」の2の（2）手すり設置方式又は（3）手すり先行専用足場方式により行うこと。
内部足場※脚立、足場板等・（）（2.2.1）
外部足場※枠組足場○縦組足場・単管足場・（）
防護シートによる養生※行う・行わない
材料、撤去材等の運搬A種※B種・C種・D種・E種（表2.2.1）
既存部分の養生※ビニールシート等・合板・（）（2.3.1）
固定家具の養生・行わない○行う（図示）
既存家具の養生※ビニールシート等・（）
仮設間仕切等の種別（2.3.2）（表2.3.1）
種別下地仕上材（厚さmm）完成材（厚さmm）塗装
・A種・軽重鉄骨・合板（・9.0・12.0）※無し
・B種・木下地・石膏ボード（※9.5・）※無し
・C種・単管下地・防護シート※無し
仮設扉※木製扉※合板張り程度※無し
※鋼製扉・（）程度※無し

②養生

③仮設間仕切

備考承認

②仮設工事

②養生

3.仮設間仕切

仮設間仕切等の種別（2.3.2）（表2.3.1）
種別下地仕上材（厚さmm）完成材（厚さmm）塗装
・A種・軽重鉄骨・合板（・9.0・12.0）※無し
・B種・木下地・石膏ボード（※9.5・）※無し
・C種・単管下地・防護シート※無し
仮設扉※木製扉※合板張り程度※無し
※鋼製扉・（）程度※無し

4.監督員事務所

⑤工事用水

⑥工事用電力

⑦総合仮設計画書

⑧危険防止

9.構台

⑩工事表示板等

⑪工事車両の出入口

③防水改修

2.アスファルト防水

（3.3.2.3）（表3.1.1）（表3.3.3～10）
防水改修工法種別新規防水層の種別施工箇所
各種防水・P1B工法・B-1※B-2
・P1B1工法・T1B1工法・B1-1※B1-2
・P2A1工法・A1-1※A1-2
・P2A2工法・A-1※A-2
露出防水・M4C工法・G-1※G-2
・M3D工法・P0D工法・D-1※D-2
・P0D1工法・M3D1工法・D1-1※D1-2
・M4D1工法
屋内防水・P1E工法・P2E工法・E-1※E-2
保護層は図示による

3.改質アスファルトシート防水

（表3.4.2.3）（表3.1.1）（表3.4.1～3）
防水改修工法の種別新規防水層の種別厚さ（mm）施工箇所
・M4AS工法・AS-1・AS-2・AS-3
・M3AS工法・AS-4・AS-5・AS-6
・POAS工法
・M3AS1工法・AS1-1・AS1-2
・M4AS1工法・POAS1工法

④合成高分子系ルーフィングシート防水

（3.5.2.3）（表3.1.1）（表3.5.1）
防水改修工法の種別新規防水層の種別施工箇所仕上り塗料塗り使用分類
・POS工法・S-F1○S-F2
○S4S工法・S-M1○S-M2
・S-M3
・POS1工法・S1-F1・S1-F2
・S4S1工法・S1-M1・S1-M2
・S1-M3
・S3S工法・S-F1・S-F2
・S3S1工法・S1-F1・S1-F2
・M4S1工法・S-M1・S-M2
・S-M3
・M4S1工法・S1-M1・S1-M2
・S1-M3

⑤塗膜防水

⑥シーリング

※設ける
※構内に新設する。（m程度）
・既存建物内の一部を使用する。
備品については、監督員の指示による。
構内既存の施設○利用できる（※有償・無償）※利用できない
構内既存の施設○利用できる（※有償・無償）※利用できない
※要する・要しない
仮囲い等・設けない※設ける
設置方法※成形鋼板（H=2.0m）・垂鉛引鉄板（H=m）・シート張り
・ロープ張り・（）
ゲート・シート（W=4.5m）・パネル（W=m）
・ハンガー（W=m）
垂直防護施設○養生シート（・防災Ⅰ類○防災Ⅱ類）・防音シート（防災Ⅰ類同等）
・持付き金網・アルミ防音パネル・（）
水平防護施設○防護棚（朝顔）・ダブルネット
防護施設等取付足場・単管一本足場・枠組本足場（W=m）○（くさび緊結式 W=900-600）
設置範囲※図示による○監督員の指示による
設置期間※工事期間中・監督員の指示による
養生構台・設置する（図示による）・設置しない
乗入れ構台・設置する（幅員m、長さm）・設置しない
監督員の指示による
工事車両の出入口では、一般通行人及び一般車両の安全確保に努めること。
交通誘導員・配置する（1名以上）○配置しない
防水改修方法の種類及び工程については「改修標仕」表3.1.1による。（表3.1.1）
シーリング改修工法の種類及び工程については「改修標仕」表3.1.2による。（表3.1.2）
（3.3.2.3）（表3.1.1）（表3.3.3～10）
アスファルトの種類※3種（3.2.2）（3.3.2）
M3D、P0D、P0D1、M3D1、及びM4D1工法の脱気装置※設ける・設けない（3.3.3）
断熱工法の断熱材※
※押出法ポリスチレンフォーム断熱材3種bA（スキン層付き）厚さ（mm）※25
・A種押出法ポリスチレンフォーム保温材の保温板3種b（スキンあり）厚さ（mm）
立上り部の保護材（3.3.2）
・乾式保護材※押出成型セメント板（厚さ15mm）
・れんが※JIS R 1250によるもの
・市販品のれんが又は市販品のれんががコンクリートブロック（見え隠れ部分）
・コンクリート
（表3.4.2.3）（表3.1.1）（表3.4.1～3）
防水改修工法の種別新規防水層の種別厚さ（mm）施工箇所
・M4AS工法・AS-1・AS-2・AS-3
・M3AS工法・AS-4・AS-5・AS-6
・POAS工法
・M3AS1工法・AS1-1・AS1-2
・M4AS1工法・POAS1工法
M3AS1、M4AS1及びPOAS1工法の防護層・設ける・設けない（表3.4.3）
M3AS、POAS、M3AS1、M4AS1及びPOAS1の脱気装置※設けない・設ける（3.4.3）
（3.5.2.3）（表3.1.1）（表3.5.1）
防水改修工法の種別新規防水層の種別施工箇所仕上り塗料塗り使用分類
・POS工法・S-F1○S-F2
○S4S工法・S-M1○S-M2
・S-M3
・POS1工法・S1-F1・S1-F2
・S4S1工法・S1-M1・S1-M2
・S1-M3
・S3S工法・S-F1・S-F2
・S3S1工法・S1-F1・S1-F2
・M4S1工法・S-M1・S-M2
・S-M3
・M4S1工法・S1-M1・S1-M2
・S1-M3
仕上り塗料の使用量
脱気装置・設ける・設けない（3.5.3）
目地処理※PCコンクリートの場合・ALCパネル下地で種別S-C1の場合（3.5.4）
（3.6.3）（表3.6.1）
施工箇所改修工法種別新規防水層種別仕上り塗料塗り
○POX○X-1○X-2※カラー・シルバー
○L4X○X-2○X-1※カラー・シルバー
脱気装置※図面図示による・種類（）・設置数量（）
（3.1.4）（表3.1.2）
シーリング改修工法の種類
・シーリング充填工法○シーリング再充填工法
・拡幅シーリング再充填工法・ブリッジ工法
シーリング材の種類
「改修標仕」表3.7.1による。（表3.7.1）
接着性試験※簡易接着性試験（表3.7.8）
・引張接着性試験（部位）

工事名称
長峽中学校管理棟屋上防水及び外壁改修工事

OKANO ARCHITECTS OFFICE
一級建築士事務所
有限会社 岡野設計事務所
福岡県行橋市北東五丁目12番6号

図面名称
改修工事特記仕様書(1)

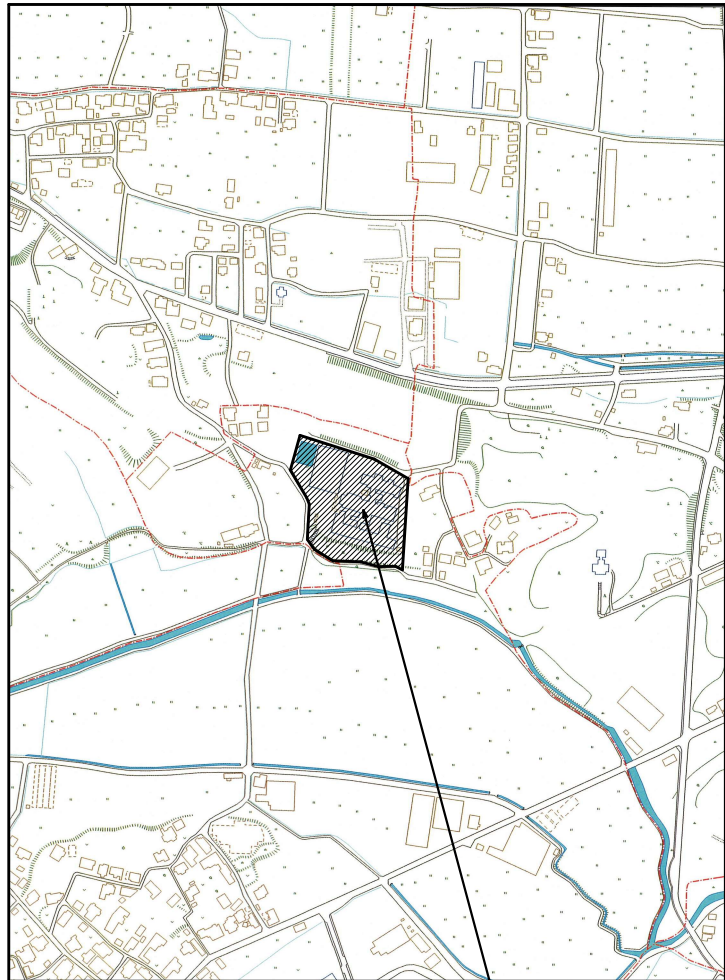
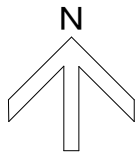
尺度

図面番号
A-01

日付

一級建築士 第114155号
監理員 岡野 真治
TEL 0930-23-0412

[illegible]

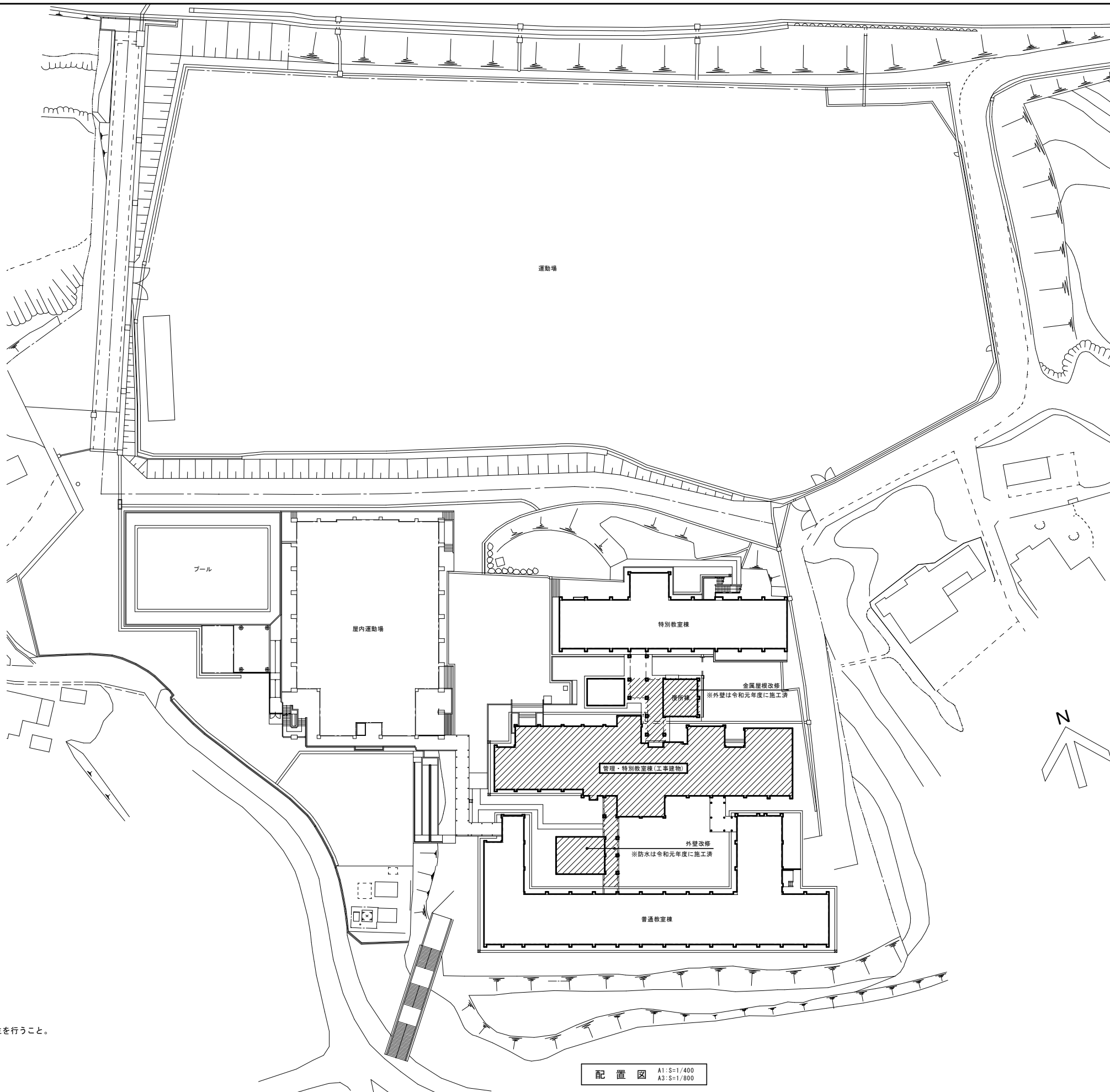


工事場所：行橋市立 長峽中学校
行橋市大字延永 6 番地

付 近 見 取 図

共通事項

- ※ 工事期間中、生徒・職員の安全に努めること。
- ※ 授業中は音の出る作業を極力控える等、学校運営に支障がないように配慮すること。
- ※ 仮設物・仮囲い等の設置場所については、施設関係者及び監督員と協議して決定すること。
- ※ 玄関・昇降口・渡り廊下等、生徒及び学校関係者・来校者の通行については、足場外部に落下防止養生を行うこと。
- ※ 敷地内の車両の通行に際しては、最徐行とし歩行者の安全に努めること。
- ※ 敷地内に工事車両が通行する際は、適時誘導員を配置し安全に努めること。
- ※ 足場の進入口は鍵付とし、工事関係者以外の立ち入り防止措置を行うこと。
- ※ 工事完了後は、仮囲い内の整地を行うこと。



配 置 図 A1: S=1/400
A3: S=1/800

OKANO ARCHITECTS OFFICE

一級建築士事務所

有限 岡野設計事務所

福岡県行橋市北泉五丁目12番6号

一級建築士 栗 114155号

義 経 真 治

TEL 0930-23-0412

DRAWN BY

CHECKED BY

工事名称 長峽中学校管理棟屋上防水及び外壁改修工事

工事場所 福岡県行橋市大字延永 6 番地

図面名称 付近見取図・配置図

DATE

SCALE

A1 S=1:400
A3 S=1:800

DRAWING NO.

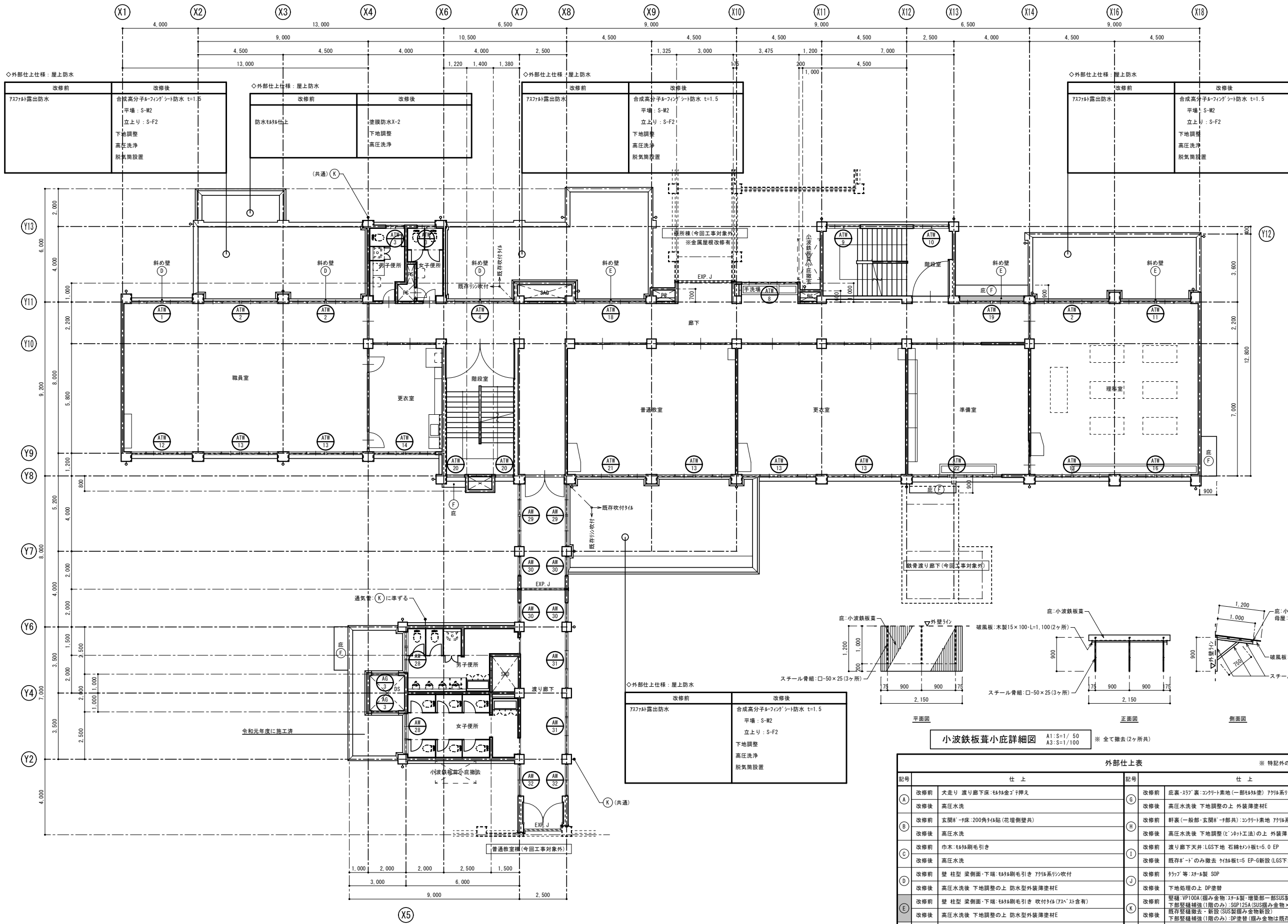
A-07

工 事 概 要																				
工 事 名 称		長峽中学校校舎管理棟外壁改修工事					階 別 床 面 積		備 考											
工 事 場 所		福岡県行橋市大字延永6番地					階	面 積	高 圧 洗 浄		既存仕上材除去は、30MPa以上とする。									
敷 地 面 積		30,791㎡							下 地 調 整		セメント系下地調整塗材(0-1) カチオン系とする。 ※ 下地調整前に水洗いを行うこと。(高圧洗浄10～15MPa)									
用 途 地 域		指定無し							鋼製建具面下地調整		R B種									
防 火 地 域		指定無し							鋼製建具面錆止め塗料塗り		C種									
施 設 用 途		中学校							ボード面下地調整		R B種									
今 回 工 事 種 別		外壁改修工事						㎡	ア ス ベ ス ト 除 去		上記によらず、アスベスト改修計画図による。									
今 回 工 事 部 分		管理・特別教室棟(一部渡り廊下棟)						㎡												
今回工事対象床面積		***㎡					合 計	㎡												
外部仕上表										外壁改修(工法及び数量)										
部 位		記 号	仕 上							種別	劣化	改修部大きさ		工 法		仕様材料		設計数量	施工数量	増減
犬走り 渡り廊下床	A	改修前	防水金ゴテ押え							一般部分	ひび割れ	0.2mm未満		シール工法		可とう性エポキシ樹脂		164.0㎡	㎡	㎡
		改修後	高圧水洗									0.2mm以上		Uカットシール材充填工法		〃		164.0㎡	㎡	㎡
玄関ドア床	B	改修前	200角タイル貼(花壇側壁共)							一般部分	外壁剥落防止			ピンネット工法				145.0㎡	㎡	㎡
		改修後	高圧水洗									モルタル浮き補修		アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法		16本/㎡		164.0㎡	㎡	㎡
巾 木	C	改修前	防水刷毛引き							一般部分	欠損	100×100以下		エポキシ樹脂モルタル充填工法				5.0箇所	箇所	箇所
		改修後	高圧水洗									200×200以下		〃				5.0箇所	箇所	箇所
壁・柱型 梁架型	D	改修前	防水刷毛引き 77系系リソ吹付							一般部分	欠損	300×300以下		〃				5.0箇所	箇所	箇所
		改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E									400×400以下		〃				5.0箇所	箇所	箇所
		改修前	防水刷毛引き 吹付タイル(77系)を含む)									500×500以下		〃				5.0箇所	箇所	箇所
		改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E									600×600以下		〃				5.0箇所	箇所	箇所
庇天端・側面	E	改修前	防水防水塗(一部77系系リソ吹付)							一般部分	欠損	700×700以下		〃				5.0箇所	箇所	箇所
		改修後	高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2									800×800以下		〃				5.0箇所	箇所	箇所
庇裏・窓アゴ裏	F	改修前	コンクリート素地(一部防水塗) 77系系リソ吹付							一般部分	欠損	900×900以下		〃				5.0箇所	箇所	箇所
		改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E									1,000×1,000		〃				5.0㎡	㎡	㎡
軒 裏 (一般部・玄関ドア部共)	G	改修前	コンクリート素地 77系系リソ吹付							一般部分	欠損									
		改修後	高圧水洗後 下地調整(コンクリート工法)の上 外装薄塗材E																	
渡り廊下天井	H	改修前	LGS下地 石膏ボード板L=5.0 EP							一般部分	ひび割れ	0.2mm未満		シール工法		可とう性エポキシ樹脂		129.0㎡	㎡	㎡
		改修後	ボードのみ撤去 タイル板L=5 EP-G新設(LGS下地は既存利用)									0.2mm以上		Uカットシール材充填工法		〃		129.0㎡	㎡	㎡
タイル等	I	改修前	防水型 SOP							一般部分	欠損	外壁剥落防止		ピンネット工法				—㎡	㎡	㎡
		改修後	下地処理の上 DP塗替									モルタル浮き補修		アンカーピンニング部分エポキシ樹脂注入工法		16本/㎡		129.0㎡	㎡	㎡
壁 柱	J	改修前	VP100A(組み金物:防水型・増設部一部SUS製)、下部壁柱補強(1階のみ):SGP125A(SUS組み金物×3)L=1,800							一般部分	欠損	100×100以下		エポキシ樹脂モルタル充填工法				10.0箇所	箇所	箇所
		改修後	既存壁柱撤去・新設(SUS製組み金物新設)、下部壁柱補強(1階のみ):DP塗替(組み金物は既存のまま)									200×200以下		〃				10.0箇所	箇所	箇所
		改修前	防水防水塗(一部77系)									300×300以下		〃				10.0箇所	箇所	箇所
		改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E(77系は既存のまま)									400×400以下		〃				10.0箇所	箇所	箇所
窓面台	K	改修前	防水防水塗(一部77系)							一般部分	欠損	500×500以下		〃				10.0箇所	箇所	箇所
		改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E(77系は既存のまま)									600×600以下		〃				10.0箇所	箇所	箇所
		改修前								一般部分	欠損	700×700以下		〃				10.0箇所	箇所	箇所
		改修後										800×800以下		〃				10.0箇所	箇所	箇所
		改修前								一般部分	欠損	900×900以下		〃				10.0箇所	箇所	箇所
		改修後										1,000×1,000		〃				10.0㎡	㎡	㎡
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		
		改修前								一般部分	欠損									
		改修後																		

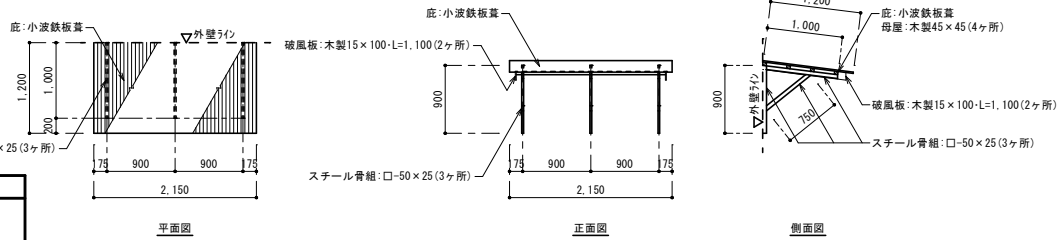


外 部 仕 上 表			※ 特記外の数値はDP塗替とする。		
記号	仕 上		記号	仕 上	
(A)	改修前	大走り 渡り廊下床: 杉材金平ご押え	(G)	改修前	庇裏: スリッ 裏: コンクリート素地 (一部杉材塗) 7716系シンク付
	改修後	高圧水洗		改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装増津材E
(B)	改修前	玄関①・扉床: 200角杉材貼 (花壇側壁共)	(H)	改修前	軒裏 (一般部・玄関①・部共): コンクリート素地 7716系シンク付
	改修後	高圧水洗		改修後	高圧水洗後 下地調整 (c' ①c'工法) の上 外装増津材E
(C)	改修前	巾木: 杉材刷毛引き	(I)	改修前	渡り廊下天井・LSG下地 石巻杉板×板=5.0 EP
	改修後	高圧水洗		改修後	既存c'-d'のみ撤去 杉材板=5 EP新設 (LSG下地は既存利用)
(D)	改修前	壁 柱型 梁側面: 下端: 杉材刷毛引き 7716系シンク付	(J)	改修前	タナ7 等: スチール型 SIP
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装増津材E		改修後	下地処理の上 DP塗替
(E)	改修前	壁 柱型 梁側面: 下端: 杉材刷毛引き 吹付杉材 (72㎡ 2斗含有)	(K)	改修前	壁壁・VP1004 (組み金物: スチール型・増設部一部SUS製) 下り發透補強 (1階のみ): SGP1254 (SUS製+金物×3引=1,800 既存發透補強: 新設 (SUS製+金物×3引=1,800 下り發透補強 (1階のみ): DP塗替 (組み金物は既存のまま)
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装増津材E		改修後	
(F)	改修前	庇天端・側面 梁天端: 防水杉材塗 (一部7716系シンク付)		改修前	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2		改修後	

1 階平面図 A1:S=1/100
A3:S=1/200

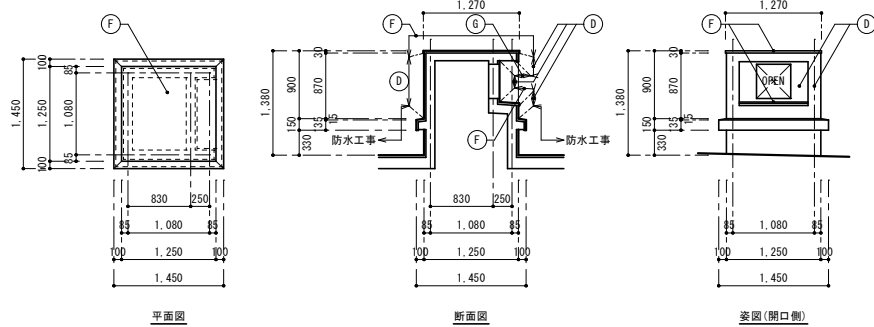
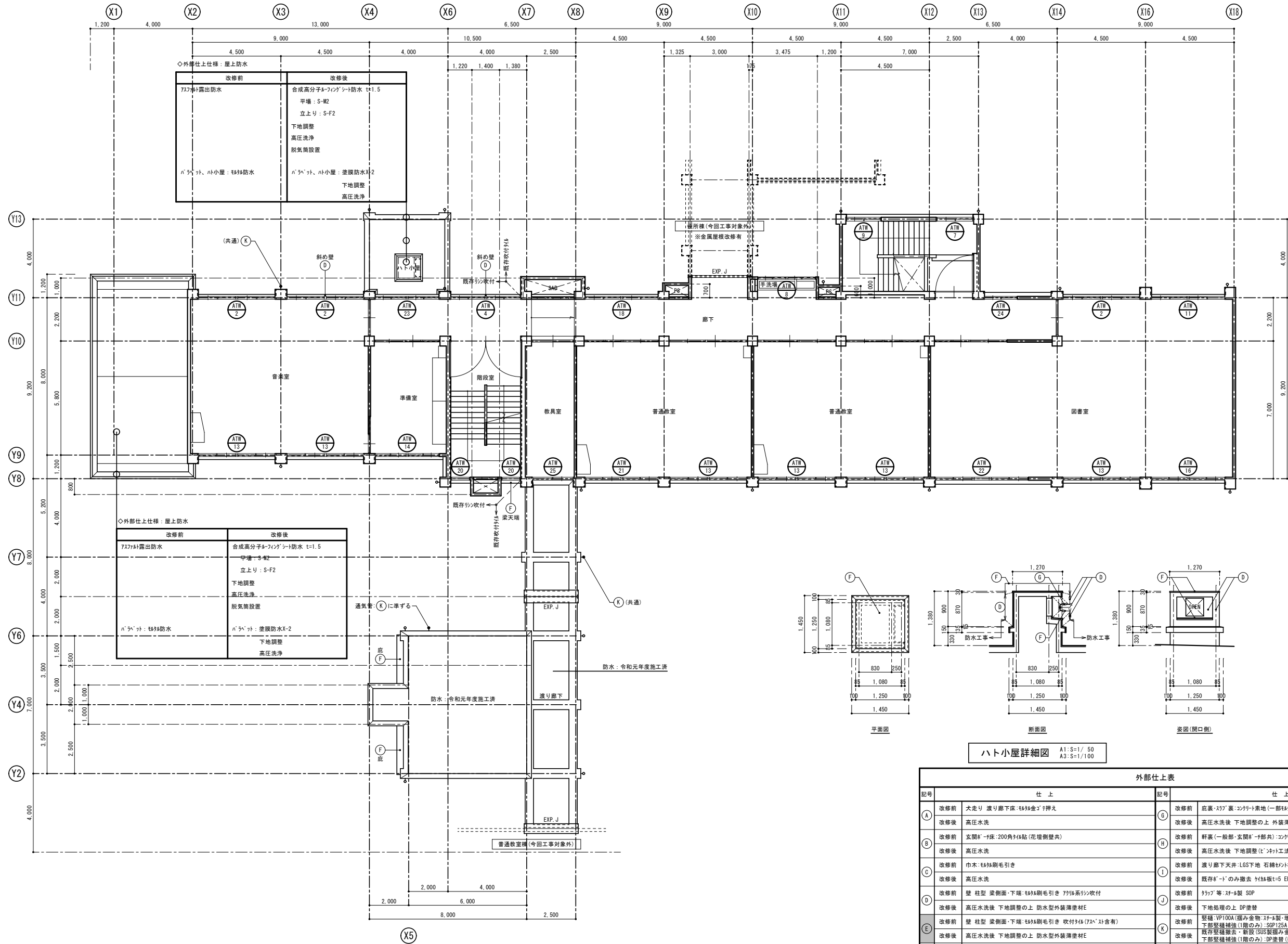


2階平面図 A1:S=1/100 A3:S=1/200



小波鉄板葺小庇詳細図 A1:S=1/50 A3:S=1/100

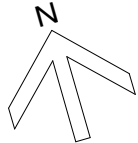
外部仕上表				※ 特記外の鉄部はDP塗装とする。			
記号		仕 上		記号		仕 上	
(A)	改修前	大走り 渡り廊下床:鉄板金ゴテ押え		(B)	改修前	庇裏:スラフ裏:コンクリート素地(一部鉄板塗) 77系シリコン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E	
(B)	改修前	玄関前:床:200角タタ貼(花壇側壁共)		(H)	改修前	軒裏(一般部・玄関前一部共):コンクリート素地 77系シリコン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整(ビニール工法)の上 外装薄塗材E	
(C)	改修前	巾木:鉄板刷毛引き		(I)	改修前	渡り廊下天井:LGS下地 石綿セリ板t=5.0 EP	
	改修後	高圧水洗			改修後	既存タタのみ撤去 77系板t=5 EP-G新設(LGS下地は既存利用)	
(D)	改修前	壁 柱型 梁側面:下端:鉄板刷毛引き 77系シリコン吹付		(J)	改修前	タタ等:タタ型 SOP	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	下地処理の上 DP塗装	
(E)	改修前	壁 柱型 梁側面:下端:鉄板刷毛引き 吹付タタ(77系)を含む		(K)	改修前	壁補:VP100A(組み金物:タタ型・増設部一部SUS製) 下部壁補強(1階のみ):SUS組み金物×3×L=1,800	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	下部壁補強(1階のみ):SUS組み金物新設 下部壁補強(1階のみ):DP塗装(組み金物は既存のまま)	
(F)	改修前	庇天端・側面 梁天端:防水鉄板塗(一部77系シリコン吹付)			改修前		
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2			改修後		



ハト小屋詳細図 A1:S=1/50 A3:S=1/100

外部仕上表						※ 特記外の鉄部はDP塗替とする。	
記号		仕 上		記号		仕 上	
(A)	改修前	大走り 渡り廊下床:鉄板金ゴテ押え		(G)	改修前	庇裏・スラフ裏:コンクリート素地 (一部鉄板塗) 7777系リソ吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E	
(B)	改修前	玄関・1F床:200角4体貼 (花壇側壁共)		(H)	改修前	軒裏 (一般部・玄関・1F部共):コンクリート素地 7777系リソ吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整 (ビニール工法)の上 外装薄塗材E	
(C)	改修前	巾木:鉄板刷毛引き		(I)	改修前	渡り廊下天井:LGS下地 石綿むしり板t=5.0 EP	
	改修後	高圧水洗			改修後	既存鉄板・1Fのみ撤去 4777板t=5 EP-G新設 (LGS下地は既存利用)	
(D)	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:鉄板刷毛引き 7777系リソ吹付		(J)	改修前	スラフ等:鉄板刷毛 SOP	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	下地処理の上 DP塗替	
(E)	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:鉄板刷毛引き 吹付4777 (7777系含有)		(K)	改修前	壁補:VP100A (鋼み金物:鉄板製・増設部一部SUS製) 下部壁補強 (1階のみ):SGP125A (SUS鋼み金物×3)L=1,800	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	既存壁補強撤去・新設 (SUS鋼み金物新設) 下部壁補強 (1階のみ):DP塗替 (鋼み金物は既存のまま)	
(F)	改修前	庇天端・側面 梁天端:防水鉄板塗 (一部7777系リソ吹付)			改修前		
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2			改修後		

3階平面図 A1:S=1/100 A3:S=1/200

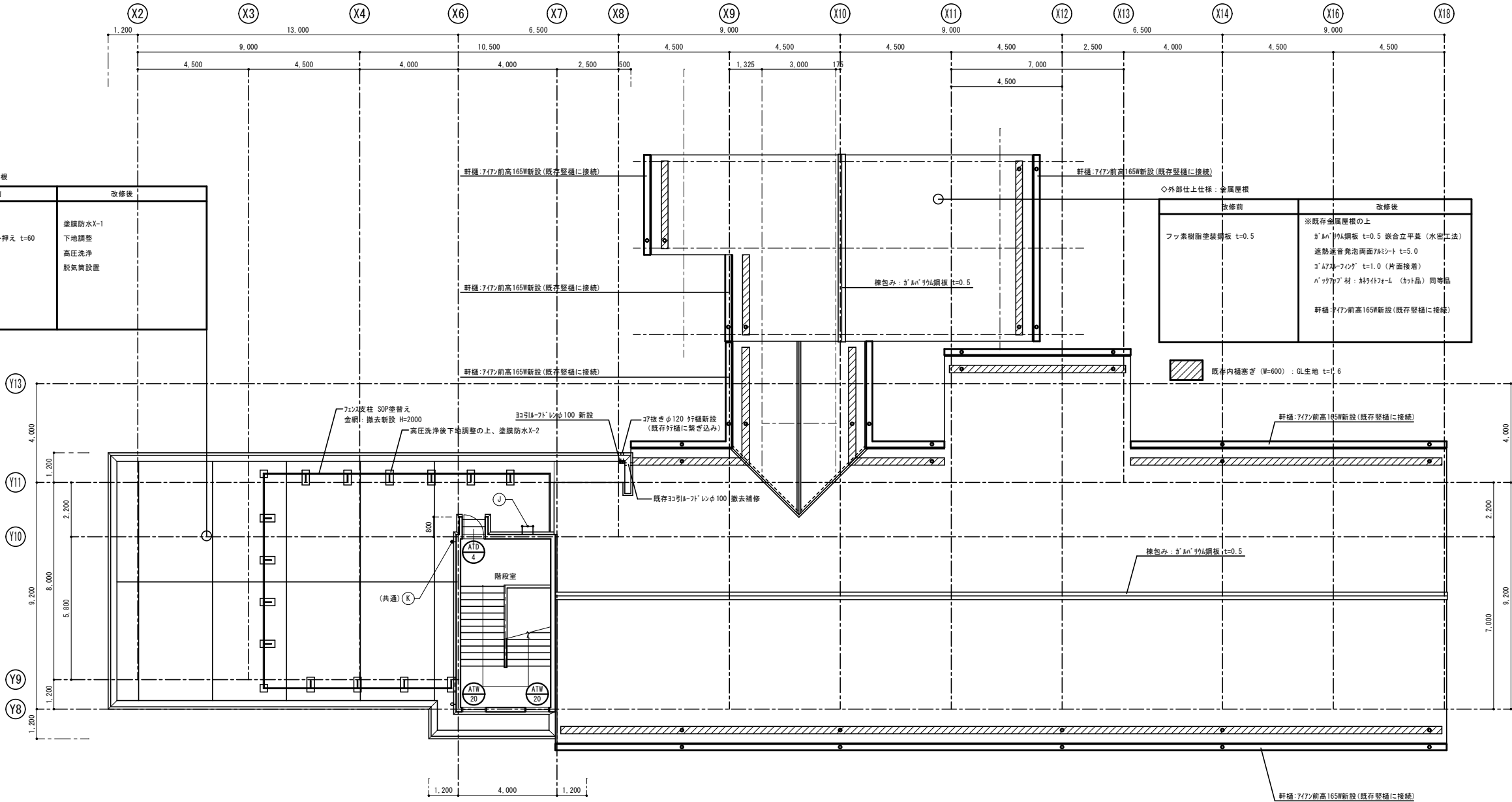


◇外部仕上仕様：金属屋根

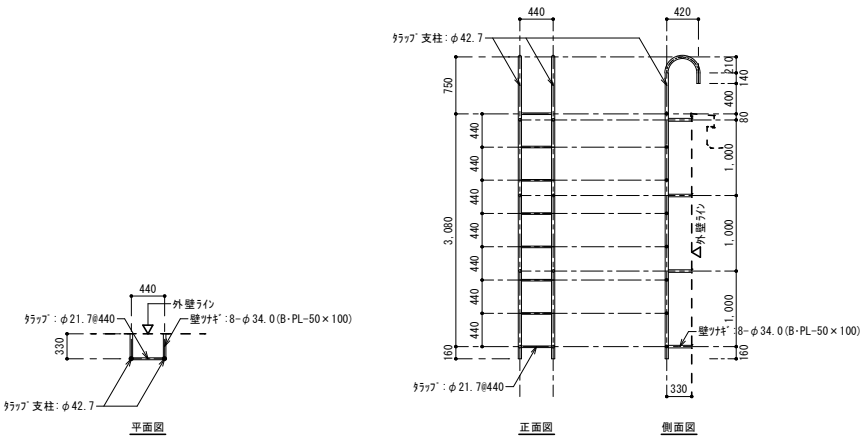
改修前	改修後
保護モルタル塗 t=30 777防水 軽量コンクリート押え t=60	塗膜防水X-1 下地調整 高圧洗浄 脱気筒設置

◇外部仕上仕様：金属屋根

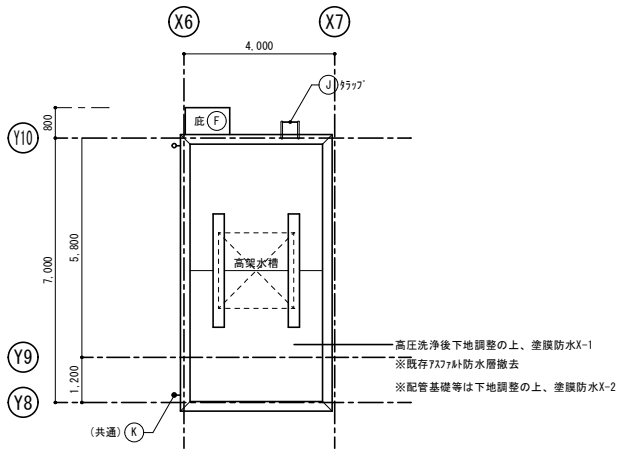
改修前	改修後
フッ素樹脂塗装鋼板 t=0.5	※既存金属屋根の上 S100鋼板 t=0.5 嵌合立平葺（水密工法） 透熱遮音発泡両面782シート t=5.0 S100鋼板-フッ素 t=1.0（片面接着） S100鋼板 材：S100（カット品）同等品 軒樋：777前高165W新設（既存壁樋に接続）



R階平面図 A1:S=1/100
A3:S=1/200

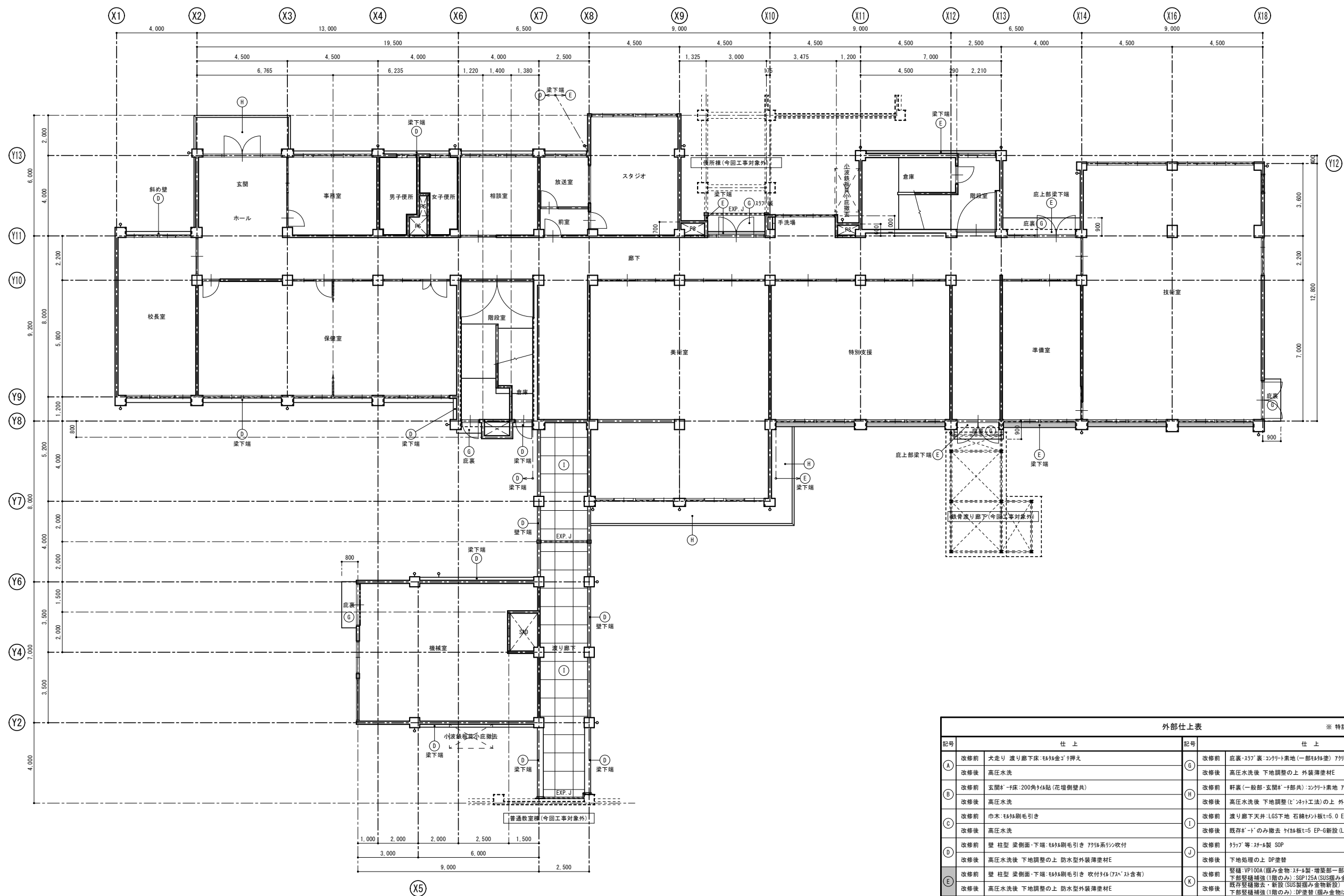


トラップ詳細図 A1:S=1/50
A3:S=1/100 ※ 全てDP建替 ①



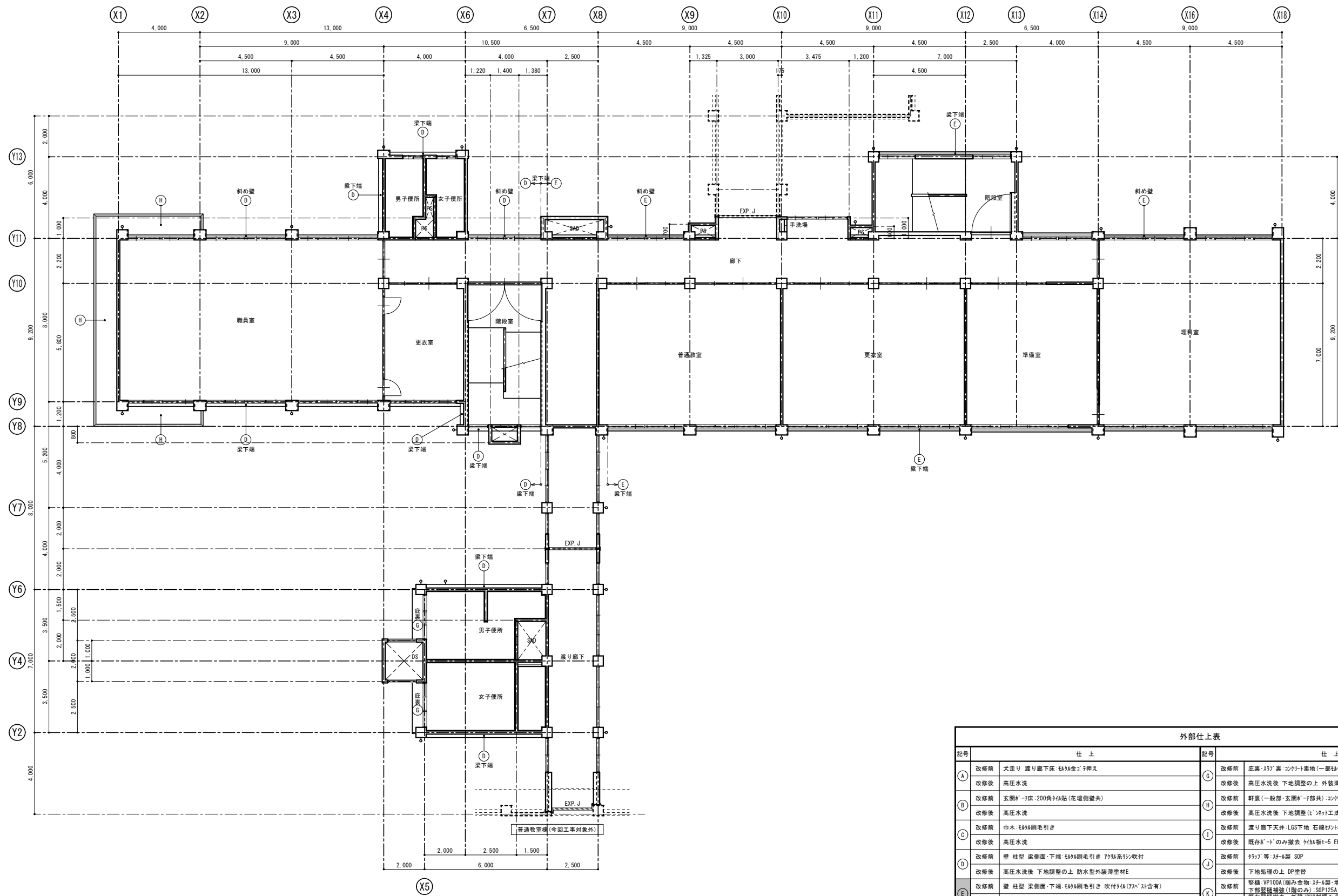
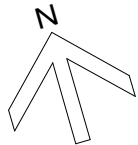
PHR階平面図 A1:S=1/100
A3:S=1/200

外部仕上表				※ 特記外の鉄部はDP建替とする。			
記号	仕 上		記号	仕 上			
A	改修前	犬走り 渡り廊下床:モルタル金ゴテ押え	B	改修前	庇裏:スラブ裏:コンクリート素地（一部モルタル塗）777系リソ吹付		
	改修後	高圧水洗		改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E		
B	改修前	玄関等:床:200角タイル貼（花壇側壁共）	H	改修前	軒裏（一般部・玄関等一部共）:コンクリート素地 777系リソ吹付		
	改修後	高圧水洗		改修後	高圧水洗後 下地調整（LGS工法）の上 外装薄塗材E		
C	改修前	巾木:モルタル引き	I	改修前	渡り廊下天井:LGS下地 石綿シート板t=5.0 EP		
	改修後	高圧水洗		改修後	既存等:のみ撤去 タイル板t=5 EP-G新設（LGS下地は既存利用）		
D	改修前	壁 柱型 梁側面:下端:モルタル引き 777系リソ吹付	J	改修前	スラブ等:タイル製 SOP		
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E		改修後	下地処理の上 DP建替		
E	改修前	壁 柱型 梁側面:下端:モルタル引き 吹付け（777系含有）	K	改修前	壁樋:VP100A（組み金物:タイル製・増設部一部SUS製） 下部壁樋補強（1階のみ）:SOP125A（SUS組み金物×3）L=1,800 既存壁樋撤去・新設（SUS製組み金物新設） 下部壁樋補強（1階のみ）:DP建替（組み金物は既存のまま）		
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E		改修後			
F	改修前	庇天端・側面 梁天端:防水モルタル塗（一部777系リソ吹付）		改修前			
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E		改修後			



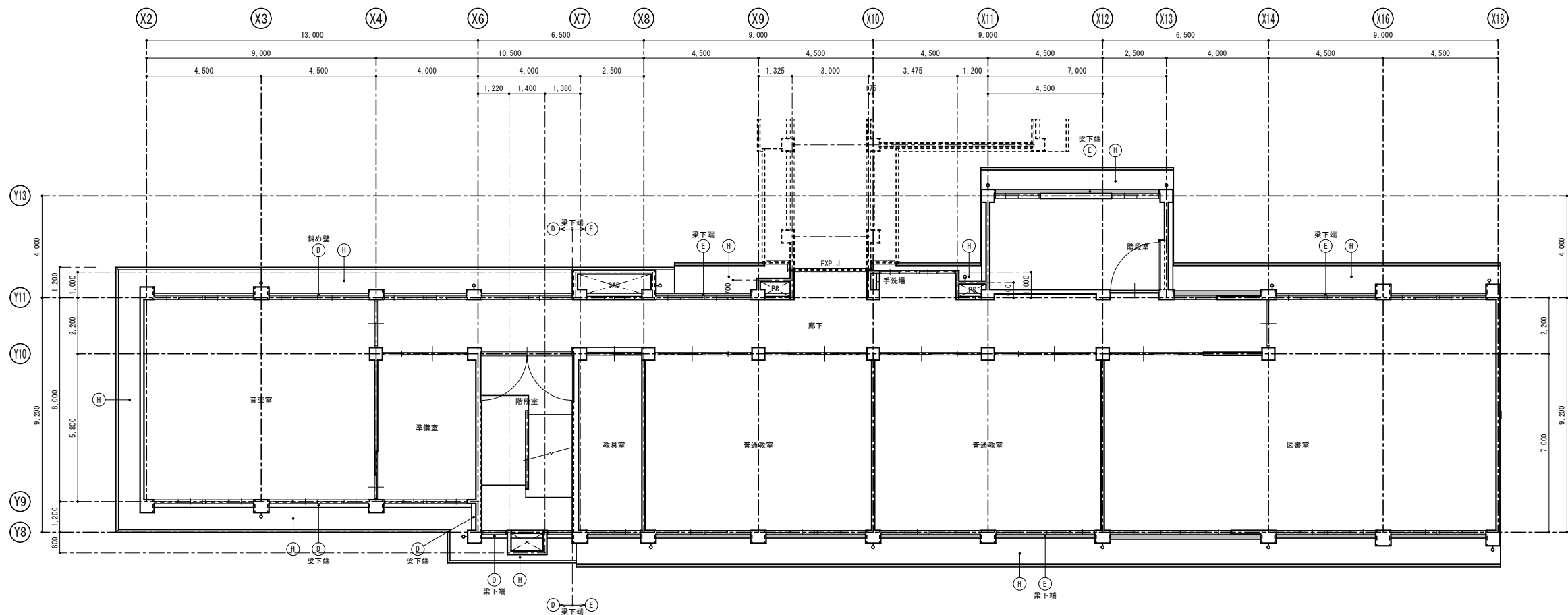
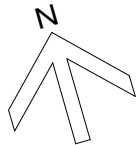
1 階天井伏図 A1:S=1/100
A3:S=1/200

外部仕上表						※ 特記外の鉄部はDP塗替とする。	
記号		仕 上		記号		仕 上	
(A)	改修前	大走り 渡り廊下床:鉄板金ゴテ押え		(G)	改修前	庇裏・スラフ裏:コンクリート素地(一部鉄板塗) 77系リシン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E	
(B)	改修前	玄関・1床:200角タイル貼(花壇側壁共)		(H)	改修前	軒裏(一般部・玄関・1床共):コンクリート素地 77系リシン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整(ビニール工法)の上 外装薄塗材E	
(C)	改修前	巾木:鉄板刷毛引き		(I)	改修前	渡り廊下天井:LGS下地 石綿むしり板t=5.0 EP	
	改修後	高圧水洗			改修後	既存タイルのみ撤去 ケイム板t=5 EP-G新設(LGS下地は既存利用)	
(D)	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:鉄板刷毛引き 77系リシン吹付		(J)	改修前	スラフ等:鉄板製 SOP	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	下地処理の上 DP塗替	
(E)	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:鉄板刷毛引き 吹付タイル(7x7)タ含有)		(K)	改修前	壁補:VP100A(組み金物:鉄板製・増設部一部SUS製) 下部壁補強(1階のみ):SOP125A(SUS組み金物×3)L=1,800 既存壁補強・新設(SUS製組み金物新設) 下部壁補強(1階のみ):DP塗替(組み金物は既存のまま)	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後		
(F)	改修前	庇天端・側面 防水鉄板塗(一部77系リシン吹付)			改修前		
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2			改修後		

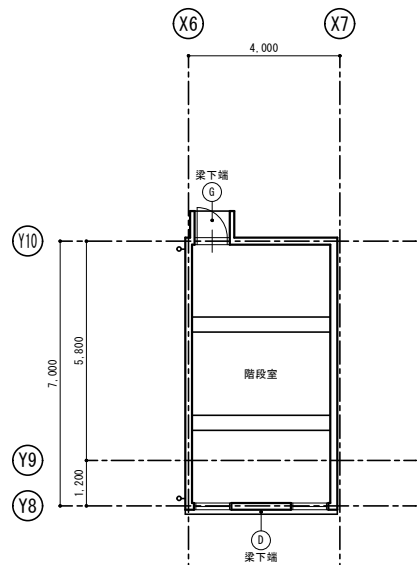


2階天井伏図 A1:S=1/100
A3:S=1/200

外部仕上表				※ 特記外の鉄部はDP塗替とする。			
記号	仕 上			記号	仕 上		
(A)	改修前	犬走り 渡り廊下床:鉄板金ゴテ押え		(G)	改修前	庇裏・スラフ裏:コンクリート素地(一部鉄板塗) 779系リシン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E	
(B)	改修前	玄関・1階床:200角タイル貼(花壇側壁共)		(H)	改修前	軒裏(一般部・玄関・1階床):コンクリート素地 779系リシン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整(ビニール工法)の上 外装薄塗材E	
(C)	改修前	巾木:鉄板刷毛引き		(I)	改修前	渡り廊下天井:LGS下地 石綿むき板t=5.0 EP	
	改修後	高圧水洗			改修後	既存タイルのみ撤去 タイル板t=5 EP-G新設(LGS下地は既存利用)	
(D)	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:鉄板刷毛引き 779系リシン吹付		(J)	改修前	タイル等:タイル製 SOP	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	下地処理の上 DP塗替	
(E)	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:鉄板刷毛引き 吹付タイル(タイル含有)		(K)	改修前	壁紙:VP100A(張り金物:タイル製・増築部一部SUS製) 下部壁補修(1階のみ):SOP125A(SUS張り金物×3)L=1,800	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	既存壁撤去・新設(SUS張り金物新設) 下部壁補修(1階のみ):DP塗替(張り金物は既存のまま)	
(F)	改修前	庇天端・側面 梁天端:防水鉄板塗(一部779系リシン吹付)			改修前		
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2			改修後		

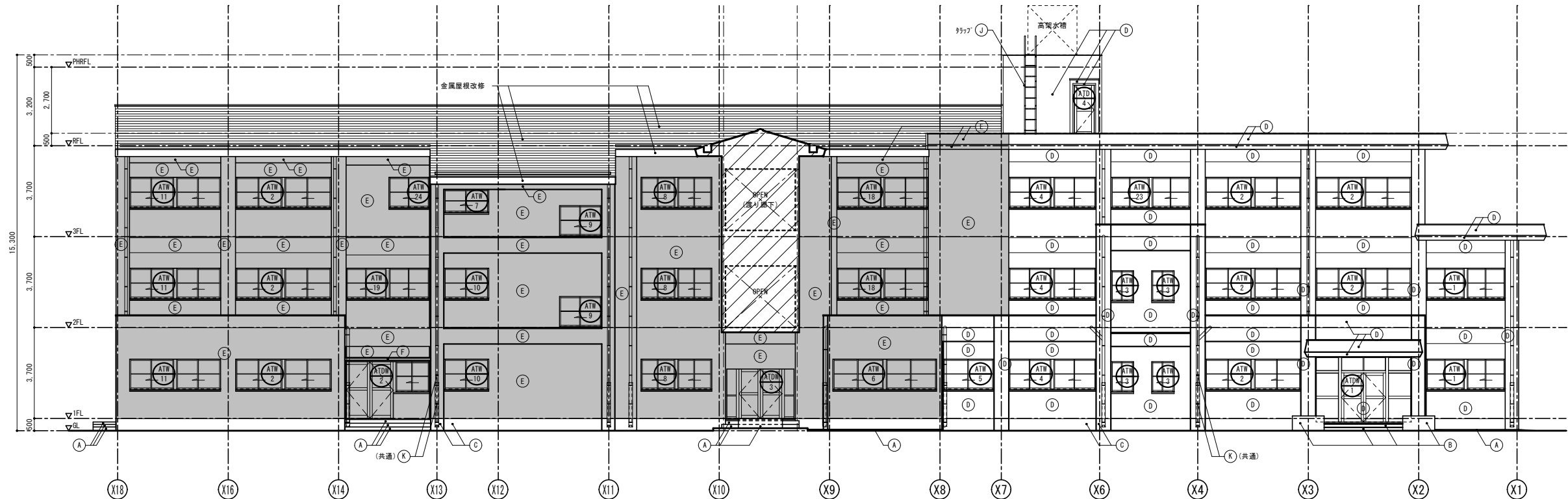


3階天井伏図 A1:S=1/100
A3:S=1/200



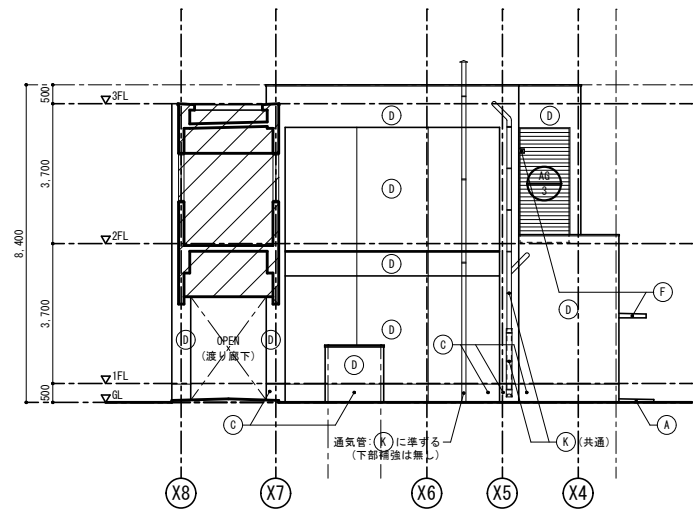
R 3階天井伏図 A1:S=1/100
A3:S=1/200

外部仕上表				※ 特記外の鉄部はDP塗替とする。	
記号	仕 上		記号	仕 上	
(A)	改修前	大走り 渡り廊下床:鉄板金ゴテ押え	(B)	改修前	庇裏・スラフ裏:コンクリート素地(一部鉄板塗) 77系シリシ吹付
	改修後	高圧水洗		改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E
(B)	改修前	玄関・1F床:200角タイル貼(花壇側壁共)	(H)	改修前	軒裏(一般部・玄関・1F部共):コンクリート素地 77系シリシ吹付
	改修後	高圧水洗		改修後	高圧水洗後 下地調整(ビニール工法)の上 外装薄塗材E
(C)	改修前	巾木:鉄板刷毛引き	(I)	改修前	渡り廊下天井:LGS下地 石綿付1/2板t=5.0 EP
	改修後	高圧水洗		改修後	既存タイルのみ撤去 1/2板t=5 EP-G新設(LGS下地は既存利用)
(D)	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:鉄板刷毛引き 77系シリシ吹付	(J)	改修前	タイル等:タイル製 SOP
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E		改修後	下地処理の上 DP塗替
(E)	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:鉄板刷毛引き 吹付タイル(7x7)を含む	(K)	改修前	壁補:VP100A(組み金物:スチール製・増築部一部SUS製) 下部壁補強(1階のみ):SOP125A(SUS組み金物×3)L=1,800 既存壁補強・新設(SUS製組み金物新設) 下部壁補強(1階のみ):DP塗替(組み金物は既存のまま)
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E		改修後	
(F)	改修前	庇天端・側面 梁天端:防水鉄板塗(一部77系シリシ吹付)		改修前	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2		改修後	

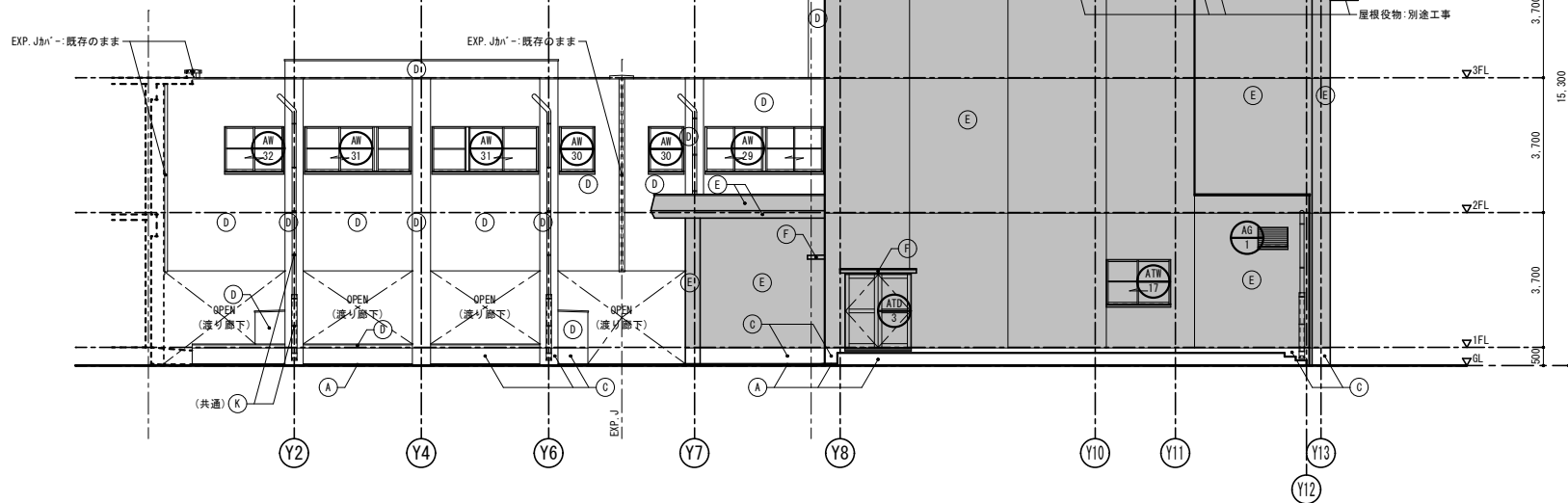


外部仕上表		※ 特記外の数値はDP塗替とする。	
記号	仕 上	記号	仕 上
(A)	改修前 大走り 渡り廊下床: 杉板金27弾え	(G)	改修前 庇裏・377'裏: コクリト素地 (一部杉板金) 7718系シン吹付
(A)	改修後 高圧水洗	(G)	改修後 高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E
(B)	改修前 玄関4'~1床: 200角杉板貼 (花壇側壁共)	(H)	改修前 軒裏 (一般部・玄関4'~1床共): コクリト素地 7718系シン吹付
(B)	改修後 高圧水洗	(H)	改修後 高圧水洗後 下地調整 (C'ノット工法)の上 外装薄塗材E
(C)	改修前 巾木: 杉板刷毛引き	(I)	改修前 渡り廊下天井: LGS下地 石綿ボード板t=5.0 EP
(C)	改修後 高圧水洗	(I)	改修後 既存4'~1'のみ撤去 杉板板t=5 EP-G新設 (LGS下地は既存利用)
(D)	改修前 壁 柱型 梁側面・下端: 杉板刷毛引き 7718系シン吹付	(J)	改修前 377'等: 杉板製 SOP
(D)	改修後 高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E	(J)	改修後 下地処理の上 DP塗替
(E)	改修前 壁 柱型 梁側面・下端: 杉板刷毛引き 吹付7718 (7718含有)	(K)	改修前 壁種: VP100A (痛み金物: 杉板製・増築部一部SUS製) 下部壁種補強 (1階のみ): SGP125A (SUS痛み金物×3)L=1,800 既存壁種撤去・新設 (SUS痛み金物新設) 下部壁種補強 (1階のみ): DP塗替 (痛み金物は既存のまま)
(E)	改修後 高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E	(K)	改修前
(F)	改修前 応天端・側面 梁天端: 防水杉板壁 (一部7718系シン吹付)	(K)	改修後
(F)	改修後 高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2		

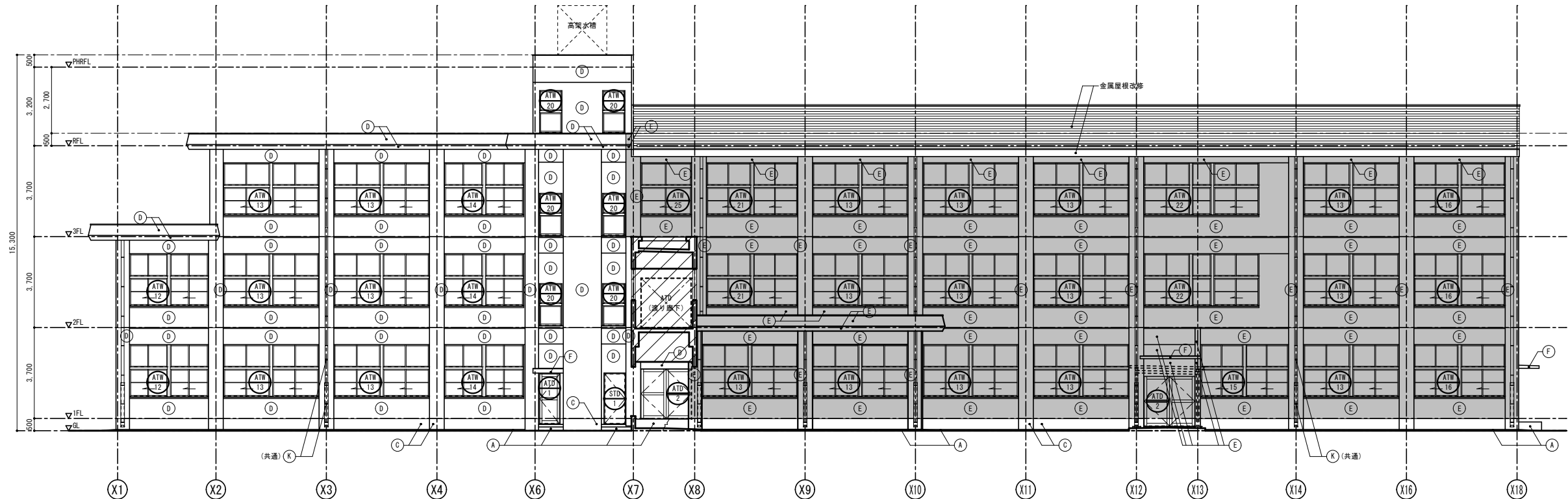
北側立面図 A1:S=1/100
A3:S=1/200



北側立面図 A1:S=1/100
A3:S=1/200



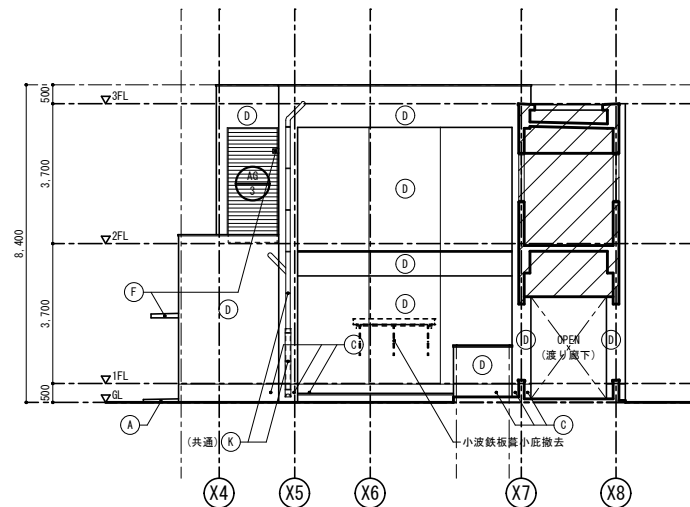
東側立面図 A1:S=1/100
A3:S=1/200



外部仕上表		※ 特記外の鉄部はDP塗装とする。	
記号	仕 上	記号	仕 上
A	改修前 大走り 渡り廊下床: 杉材金ツチ押え	B	改修前 庇裏・X37'裏: コンクリート素地 (一部杉材庇裏) 珪藻系珪藻吹付
	改修後 高圧水洗		改修後 高圧水洗後 下地調整の上 外装珪藻材E
B	改修前 玄関前・1床: 200角杉材貼 (花壇側壁共)	H	改修前 軒裏 (一般部・玄関前・1床共): コンクリート素地 珪藻系珪藻吹付
	改修後 高圧水洗		改修後 高圧水洗後 下地調整 (C'ノット工法)の上 外装珪藻材E
C	改修前 巾木: 杉材刷毛引き	I	改修前 渡り廊下天井: LGS下地 石膏ボード板t=5.0 EP
	改修後 高圧水洗		改修後 既存杉・ド'のみ撤去 杉材板t=5 EP-G新設 (LGS下地は既存利用)
D	改修前 壁・柱型 梁側面・下端: 杉材刷毛引き 珪藻系珪藻吹付	J	改修前 37'等: 杉材製 SOP
	改修後 高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装珪藻材E		改修後 下地処理の上 DP塗装
E	改修前 壁・柱型 梁側面・下端: 杉材刷毛引き 吹付珪藻 (72ベシ含有)	K	改修前 壁種: VP100A (珪藻系珪藻・杉材製・増量部一部SUS製)
	改修後 高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装珪藻材E		下部壁種補強 (1層のみ): SSP125A (SUS珪藻系珪藻×3)L=1,800
F	改修前 庇天端・側面 梁天端: 防水杉材壁 (一部珪藻系珪藻吹付)		改修後 既存壁種撤去・新設 (SUS珪藻系珪藻新設)
	改修後 高圧水洗後 下地調整の上 塗装防水X-2		下部壁種補強 (1層のみ): DP塗装 (珪藻系珪藻は既存のまま)

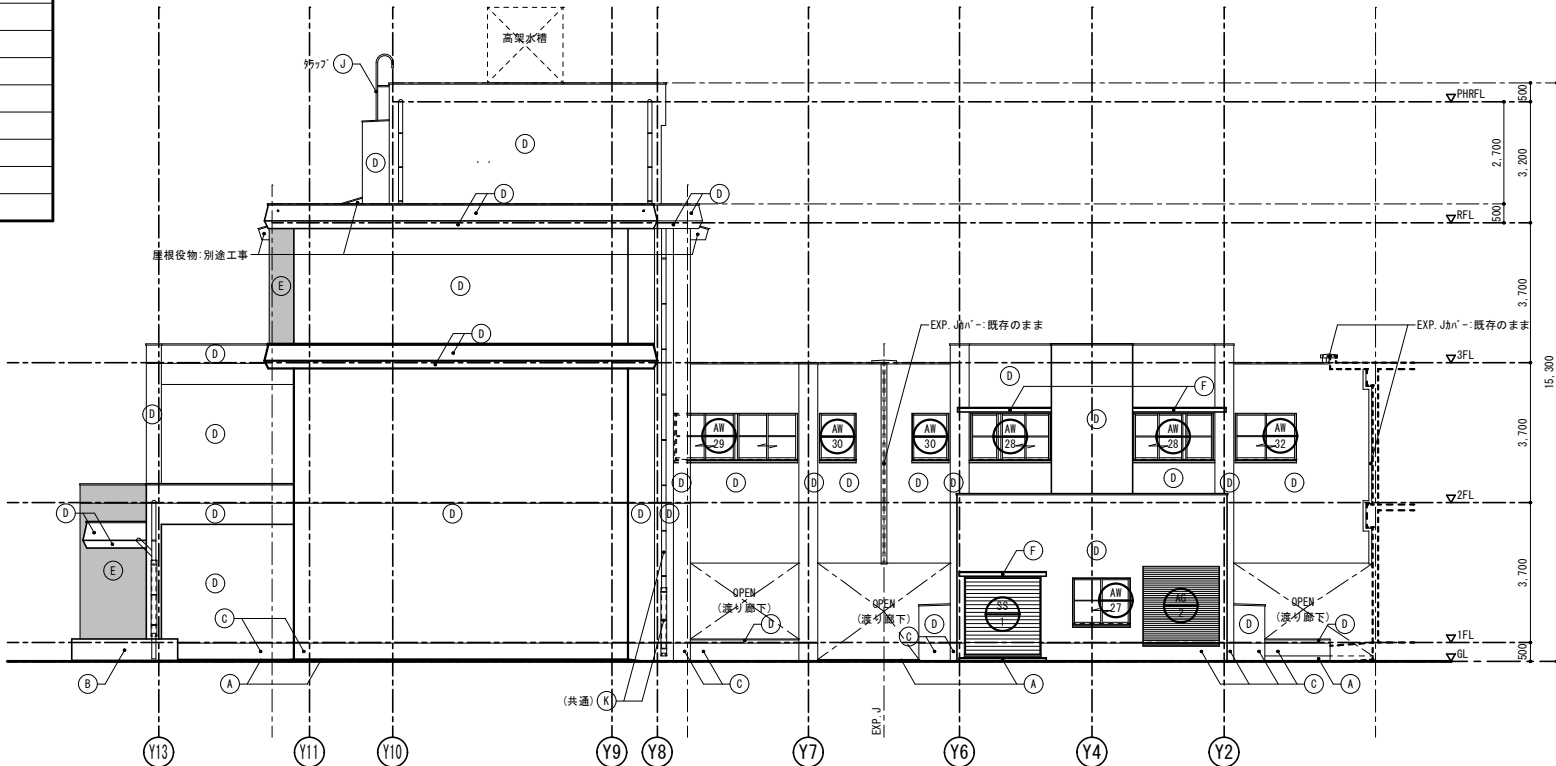
南側立面図

A1:S=1/100
A3:S=1/200



南側立面図

A1:S=1/100
A3:S=1/200



西側立面図

A1:S=1/100
A3:S=1/200

OKANO ARCHITECTS OFFICE

一級建築士事務所

有限 岡野設計事務所

福岡県行橋市北泉五丁目12番6号

一級建築士 第114155号

横 経 真 治

TEL 0930-23-0412

DRAWN BY

工事名称 長狭中学校管理棟屋上防水及び外壁改修工事

工事場所 福岡県行橋市大字延永6番地

図面名称 立面図2

DATE

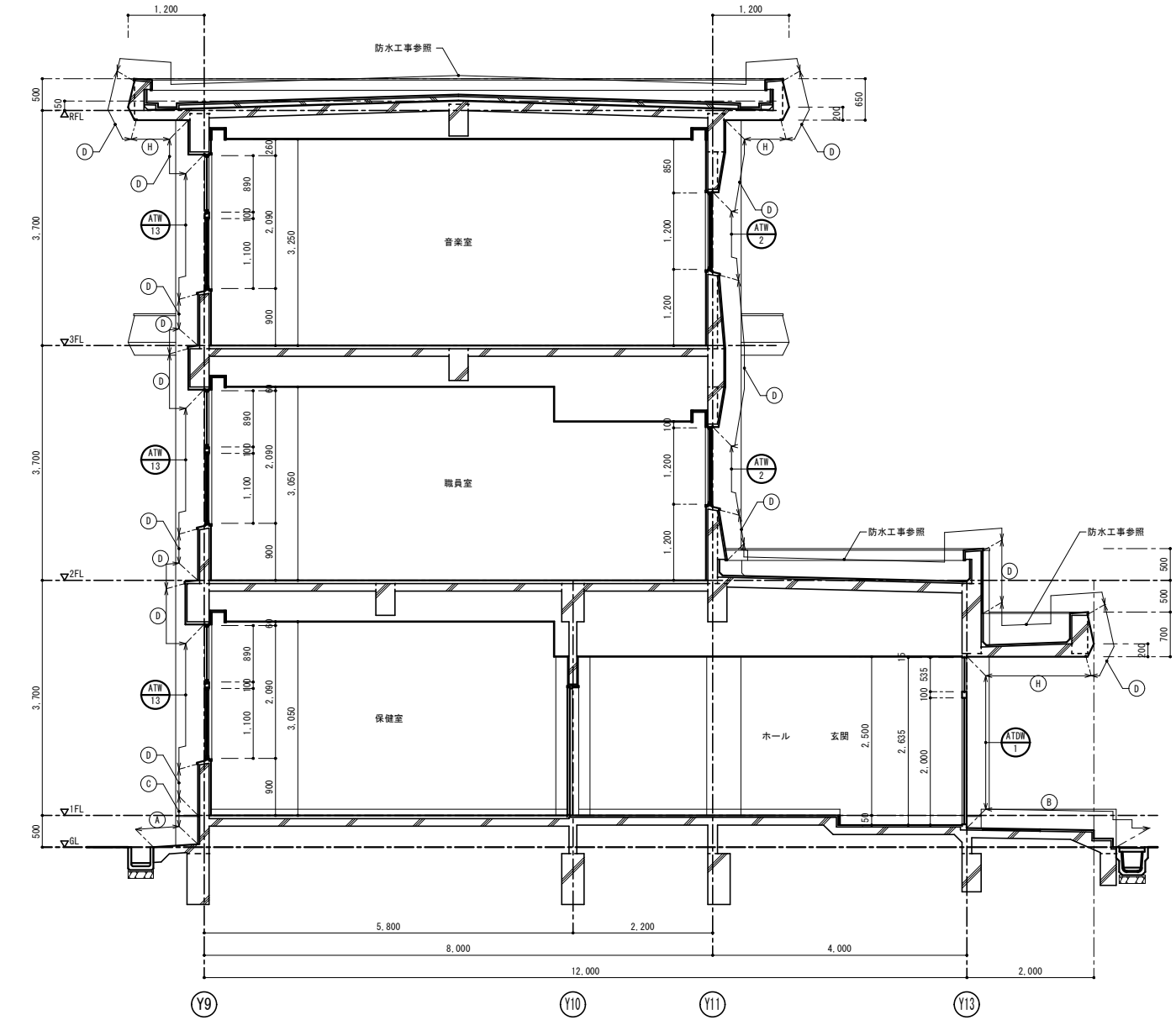
DRAWING NO.

A-17

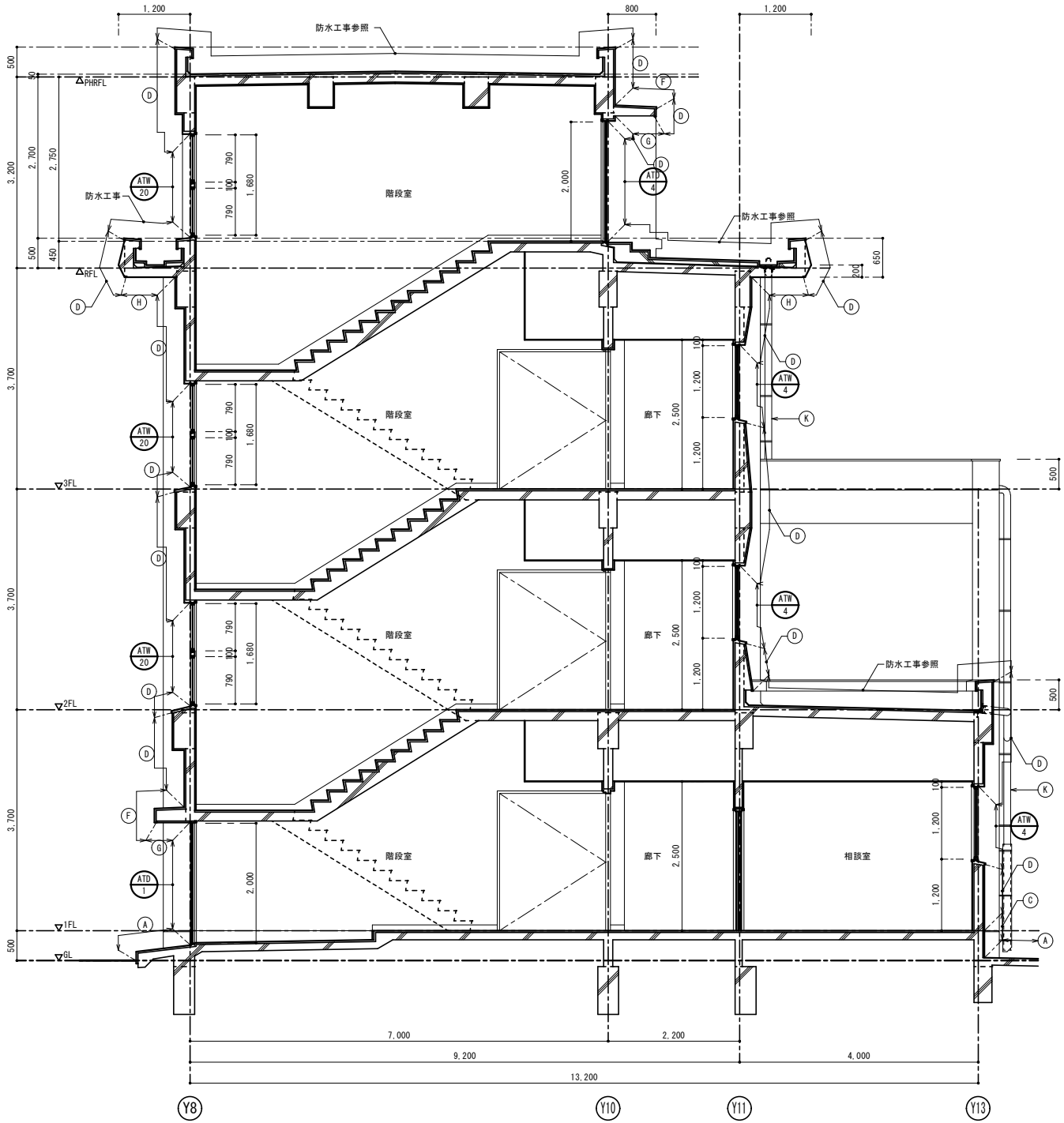
SCALE

A1 S=1:100
A3 S=1:200

外部仕上表				※ 特記外の鉄部はDP塗装とする。			
記号		仕 上		記号		仕 上	
A	改修前	大走り 渡り廊下床:モザイク貼え		G	改修前	庇裏・スラッ 裏:コンクリート素地(一部モザイク) 779系系シン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E	
B	改修前	玄関*・付床:200角タイル貼(花壇側壁共)		H	改修前	軒裏(一般部・玄関*・付部共):コンクリート素地 779系系シン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整(ビネット工法)の上 外装薄塗材E	
C	改修前	巾木:モザイク刷毛引き		I	改修前	渡り廊下天井・LS下地 石綿サシ板t=5.0 EP	
	改修後	高圧水洗			改修後	既存*・ドのみ撤去 タイル板t=5 EP-G断設(LGS下地は既存利用)	
D	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:モザイク刷毛引き 779系系シン吹付		J	改修前	タタミ等:スチール製 SOP	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	下地処理の上 DP建替	
E	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:モザイク刷毛引き 吹付タイル(779系含有)		K	改修前	壁種:VP100A(組み金物:スチール製・増築部一部SUS製) 下部壁種補強(1階のみ):SGP125A(SUS組み金物×3)L=1,800	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	既存壁種撤去・新設(SUS製組み金物新設) 下部壁種補強(1階のみ):DP建替(組み金物は既存のまま)	
F	改修前	庇天端・側面 梁天端:防水モザイク(一部779系系シン吹付)			改修前		
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2			改修後		



矩計図 1 A1:S=1/ 50
A3:S=1/100



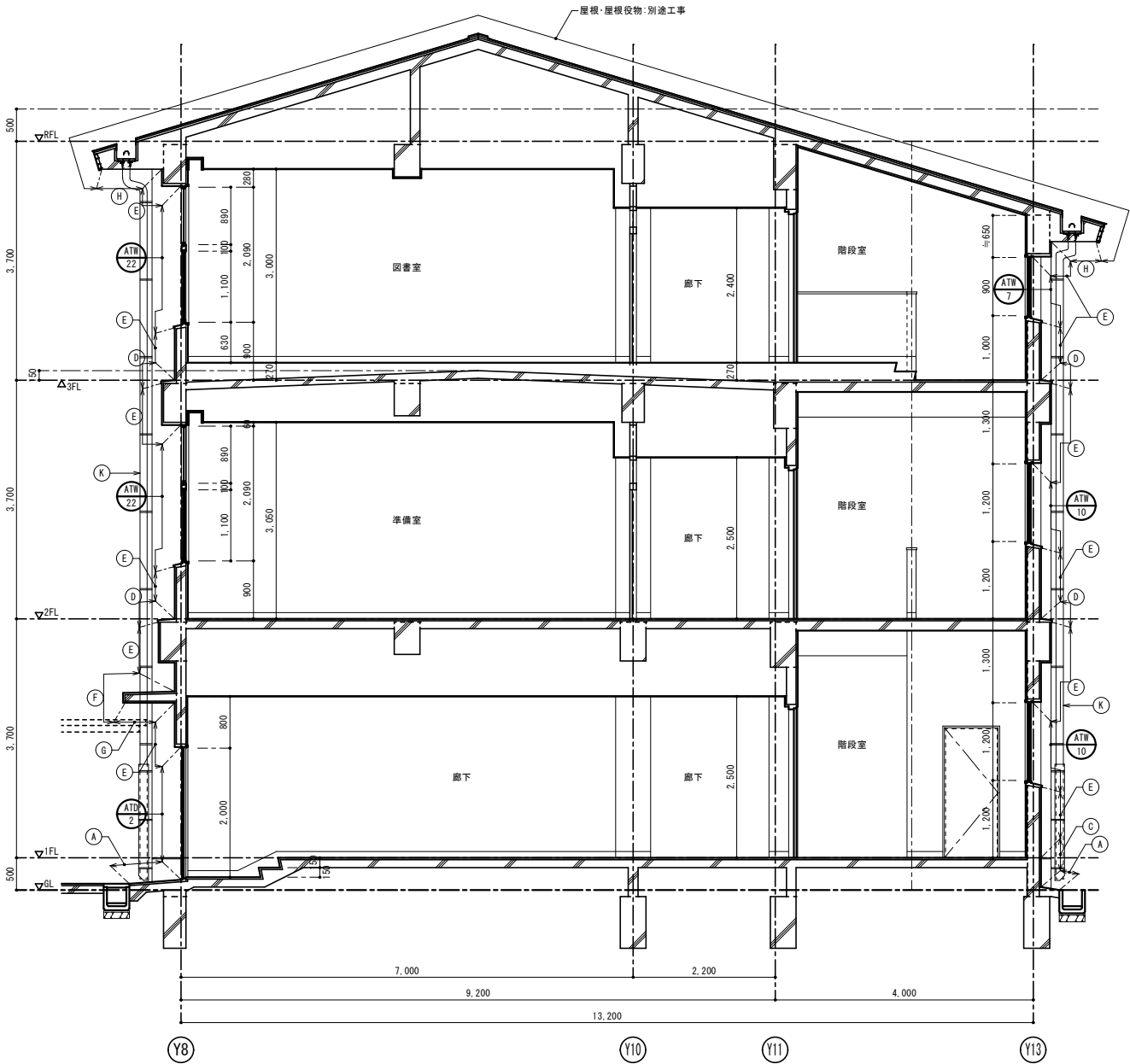
矩計図 2 A1:S=1/ 50
A3:S=1/100

OKANO ARCHITECTS OFFICE
一級建築士事務所
有限 岡野設計事務所
会社
福岡県行橋市北泉五丁目12番6号
TEL 0930-23-0412

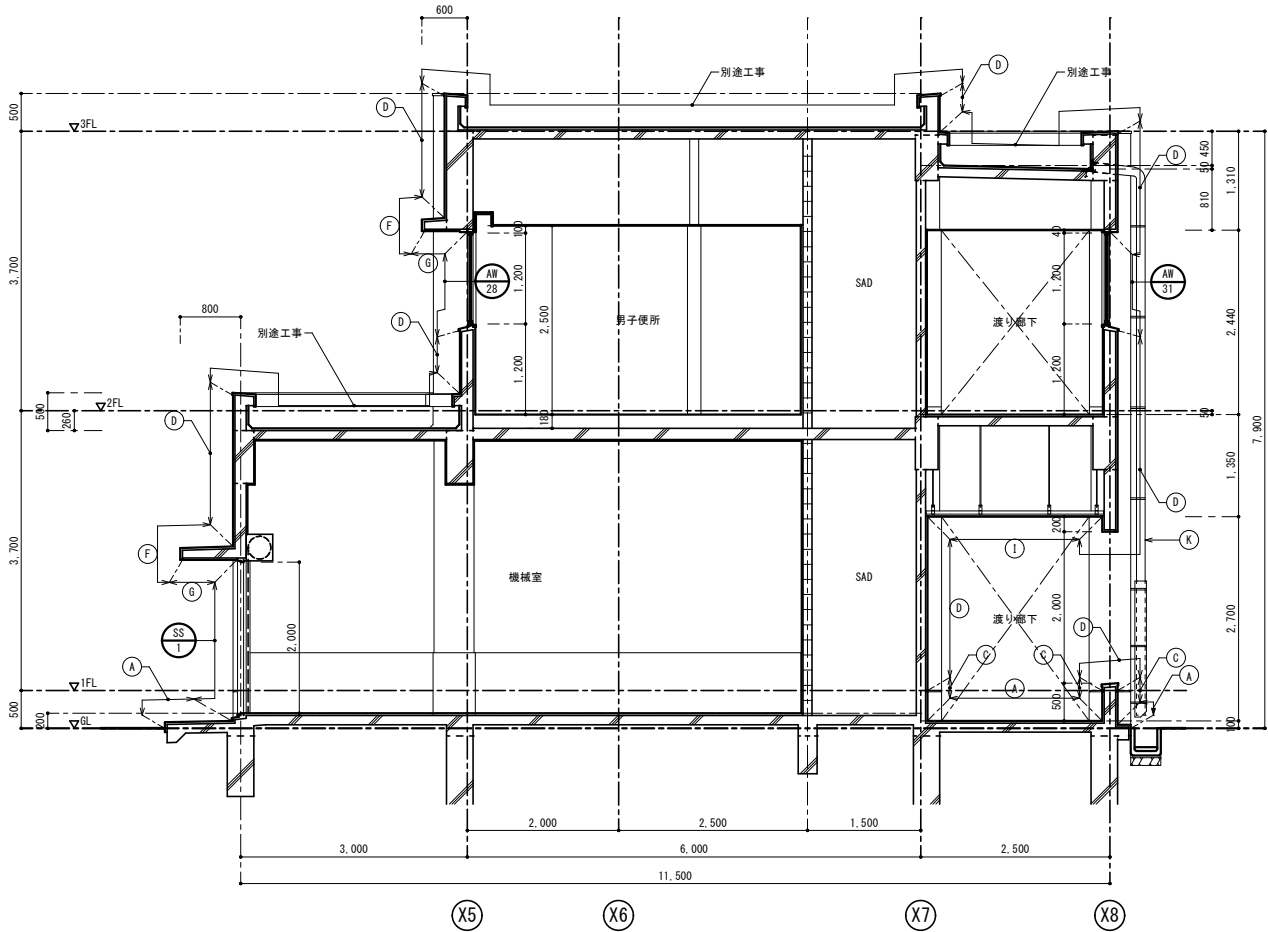
工事名称 長狭中学校管理棟屋上防水及び外壁改修工事
工事場所 福岡県行橋市大字延永6番地
図面名称 矩計図1・2

DATE
SCALE
A1 S=1: 50
A3 S=1:100
DRAWING NO.
A-18

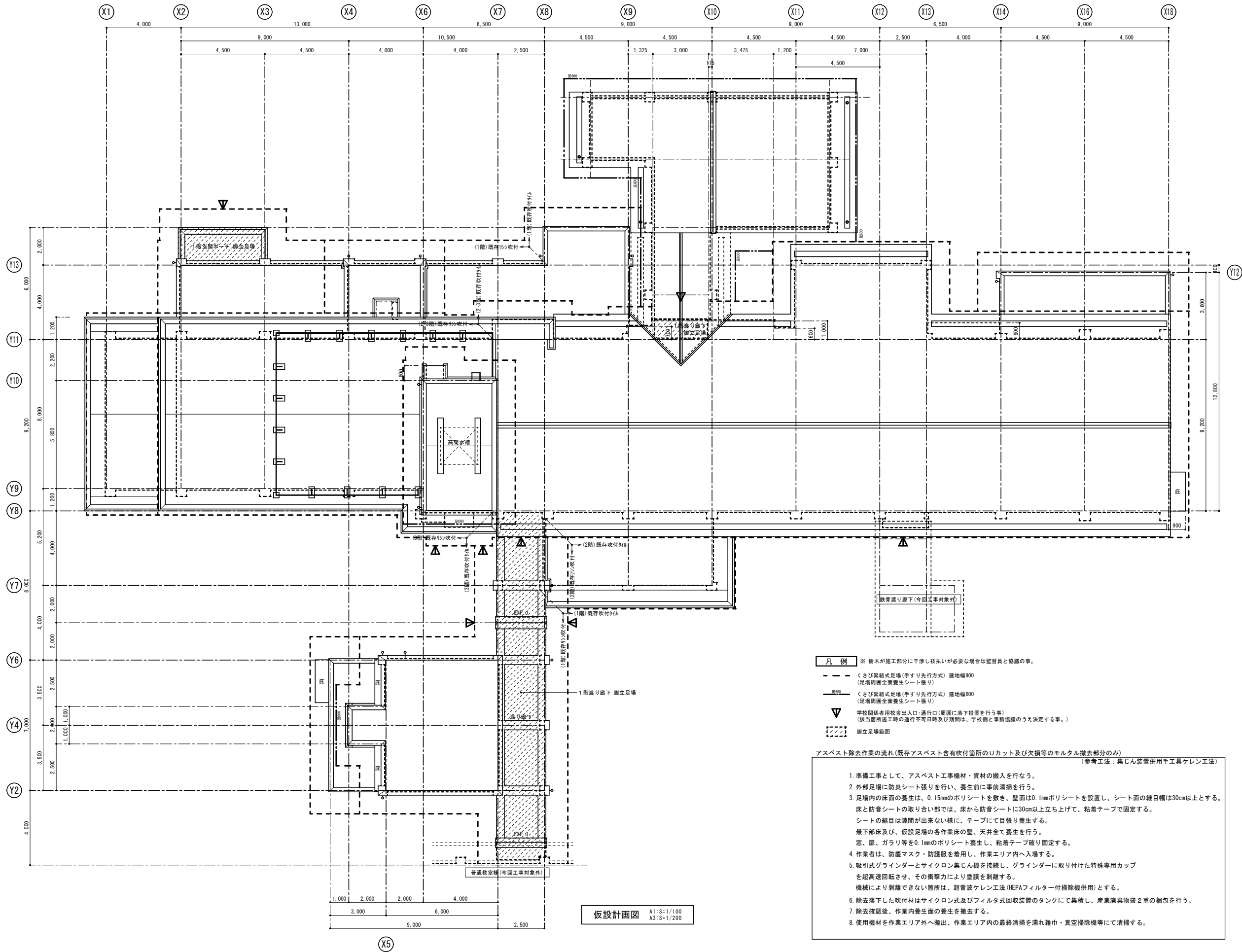
外部仕上表				※ 特記外の鉄部はDP塗替とする。			
記号		仕 上		記号		仕 上	
A	改修前	大走り 渡り廊下床:モザイクタイル貼え		G	改修前	庇裏・スラフ裏:コンクリート素地(一部タイル塗) 779系シリコン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整の上 外装薄塗材E	
B	改修前	玄関タイル床:200角タイル貼(花壇側壁共)		H	改修前	軒裏(一般部・玄関タイル部共):コンクリート素地 779系シリコン吹付	
	改修後	高圧水洗			改修後	高圧水洗後 下地調整(ビニール工法)の上 外装薄塗材E	
C	改修前	巾木:タイル刷毛引き		I	改修前	渡り廊下天井・LSG下地 石綿セリト板t=5.0 EP	
	改修後	高圧水洗			改修後	既存タイルのみの撤去 タイル板t=5 EP-G新設(LSG下地は既存利用)	
D	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:タイル刷毛引き 779系シリコン吹付		J	改修前	タイル等:タイル装 SOP	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	下地処理の上 DP塗替	
E	改修前	壁 柱型 梁側面・下端:タイル刷毛引き 吹付タイル(779系タイル含有)		K	改修前	壁種:VP100A(組み金物:タイル装・増築部一部SUS装) 下部壁種補強(1階のみ):SGP125A(SUS組み金物×3)L=1,800	
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 防水型外装薄塗材E			改修後	既存壁種撤去・新設(SUS装組み金物新設) 下部壁種補強(1階のみ):DP塗替(組み金物は既存のまま)	
F	改修前	庇天端・側面 梁天端:防水タイル装(一部779系シリコン吹付)			改修前		
	改修後	高圧水洗後 下地調整の上 塗膜防水X-2			改修後		



矩計図 3 A1:S=1/ 50
A3:S=1/100



矩計図 4 A1:S=1/ 50
A3:S=1/100



- 凡例 ※ 樹木が施工部分に干渉し枝払いが必要な場合は監督員と協議の事。
- くさび緊結式足場(手すり先行方式) 建地幅900
(足場周囲全面養生シート張り)
 - くさび緊結式足場(手すり先行方式) 建地幅600
(足場周囲全面養生シート張り)
 - ▽ 学校関係者用校舎出入口・通入口(周囲に落下措置を行う事)
(該当箇所施工時の通行不可日時及び期間は、学校側と事前協議のうえ決定する事。)
 - 脚立足場範囲

- アスベスト除去作業の流れ(既存アスベスト含有吹付箇所のリカット及び欠損等のモルタル撤去部分のみ)
(参考工法：集じん装置併用手工具ケレン工法)
- 準備工事として、アスベスト工事機材・資材の搬入を行なう。
 - 外部足場に防炎シート張りを行い、養生前に事前清掃を行う。
 - 足場内の床面の養生は、0.15mmのポリシートを敷き、壁面は0.1mmポリシートを設置し、シート面の継目幅は30cm以上とする。
床と防音シートの取り合い部では、床から防音シートに30cm以上立ち上げて、粘着テープで固定する。
シートの継目は隙間が出来ないように、テープにて目張り養生する。
最下部床及び、仮設足場の各作業床の壁、天井全て養生を行う。
窓、扉、ガラリ等を0.1mmのポリシート養生し、粘着テープ確り固定する。
 - 作業者は、防塵マスク・防護服を着用し、作業エリア内へ入場する。
 - 吸引式グラインダーとサイクロン集じん機を接続し、グラインダーに取り付けた特殊専用カップ
を超高速回転させ、その衝撃力により塗膜を剝離する。
機械により剝離できない箇所は、超音波ケレン工法(HEPAフィルター付掃除機併用)とする。
 - 除去落下した吹付材はサイクロン式及びフィルタ式回収装置のタンクにて集積し、産業廃棄物袋2重の梱包を行う。
 - 除去確認後、作業内養生面の養生を撤去する。
 - 使用機材を作業エリア外へ搬出、作業エリア内の最終清掃を濡れ雑巾・真空掃除機等にて清掃する。